

令和2年度
上宮太子高等学校
学校評価関係

1. 規定
2. 各部署の年間計画及び重点目標
3. 各部署の中間報告
4. 各部署の総括
5. 授業アンケート分析
6. 学校評価に関する報告書
7. 学校関係者評価に関する報告書

上宮太子高等学校 学校評価に関する規定

平成 23 年 3 月 17 日 制定

(趣旨)

第 1 条 この規定は、学校教育法施行規則第 66 条及び第 67 条に基づき、学校法人上宮学園が設置する上宮太子高等学校における教育活動その他学校運営状況に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第 2 条 学校法人上宮学園が設置する上宮太子高等学校（以下「学校」という。）が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき成果やそれに向けた取り組みの目標を策定し、その達成状況を検証かつ評価することにより改善を図り、学校教育の質的向上に資するために必要な事項を定めるものとする。

(学校評価)

第 3 条 学校評価は、自ら行う自己評価ならびに保護者及びその他の関係者が、学校の自己評価の結果を踏まえて評価する学校関係者評価とする。

第 4 条 自己評価の改善方策の実施のため、学校に学校評価委員会を設置する。

2 学校評価委員会は、自己評価及び学校関係者評価の計画・立案・進行管理・改善策及び結果の公表を行う。

(学校評価委員会)

第 5 条 学校は、第 3 条に定める自己評価のため、学校長、学校参事、教頭、事務長、学校評価主任、学校評価担当を委員とする学校評価委員会を設置する。

2 学校長は、委員長として学校評価委員会を主宰する。学校評価主任は、委員長を補佐し学校評価委員会の会務を推進する。

(自己評価項目)

第 6 条 学校における学校評価委員会は、学校の教育目標に基づき、長・中期及び単年度の重点目標並びに教育活動その他の学校運営に係る評価領域・項目を定める。

2 自己評価を実施するについては、生徒による授業評価、生徒及び保護者に対する学校評価外部アンケートの調査結果も活用する。

(学校関係者評価)

第 7 条 学校における学校関係者評価委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。人数は 5 名程度とする。

- (1) 保護者会役員の中から学校長が委嘱する委員
- (2) 学校卒業生の中から学校長が委嘱する委員

(3) その他、必要に応じて学校が選出する委員

- 2 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。
- 3 学校における学校関係者評価委員会に委員長を置く。
- 4 学校における学校関係者評価委員会の委員長は、当該学校関係者評価委員会の会務を総理する。
- 5 学校における学校関係者評価委員会は、学校の学校運営の改善に資するための必要な助言を付して、自己評価に対する検証結果を学校長に報告する。
- 6 学校における学校関係者評価委員会が必要と認めたときは、第7条第1項各号に定める委員以外の者を出席させ、意見を聞くことができる。
- 7 委員は、その職務に関して知り得た個人情報の内容をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に利用してはならない。その職を退いた後も同様とする。

(評価結果の報告)

第8条 学校評価委員会の委員長は、自己評価及び学校関係者の評価結果と今後の改善方策をまとめ、学園の理事会(理事長)に提出するものとする。

(評価結果の公開)

第9条 学校評価委員会の委員長は、自己評価及び学校関係者の評価結果の一部を、ホームページ等で外部に公開するものとする。

(事務の所管)

第10条 この規定に関する事務は、学校の学校評価委員会が行う。

附則

この規定は、平成23年3月18日から施行する。

令和２年度
学校評価に関する
各部署の重点目標

上宮太子高等学校

部署名	教務部	担当者	
-----	-----	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 令和2年度の重点目標 ※4月末までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ・ 大学入試改革への対応の為の調査書の検討・作成。 ・ 労働時間の遵守及び就業システムを円滑に運営するため、事務所・総務との連携。 ・ 教務内規・考査規定の再検討。 ・ 臨時休校期間におけるオンライン授業の確立
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 ・ 教務運営システムの整備・効率化 ・ 国際理解教育の推進 ・ 有効な指導体系の継続検討

2. 令和2年度の取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
(1) 教務運営システムの整備・効率化 ① 行事の着実な実施と改良 ※入念な準備, 実施要項作成 ※実施資料(改善点等記録含)の整理・保存・次年度への引継ぎ等 ② 教務各係の業務内容と資料の点検・整備 ③ 教務内規の精査・改定・整備 ※確定規定の明文化と職員周知 ④ 各部署との連携強化による業務効率化			
(2) 有効な指導体系の継続検討 ⑤ カリキュラム改良の検討 ⑥ シラバス改良の検討			
(3) 国際理解教育の推進 ⑦ 社会の動きに併せながら対応をしていく			
(4) オンライン授業の導入 ⑧ 新型コロナウイルスによる臨時休校期間の対策として組織的なオンライン授業体制の整備			

※遂行度: 各項目の進捗状況 / 達成度: 各項目の達成・評価状況

※評価基準: A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

部署名	生徒指導部	担当者	
-----	-------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 令和2年度の重点目標 ※4月末までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標	
生徒相談	悩みをもつ生徒が、楽しく学校生活が送れるようにする。
	1 教職員への啓発・発信 2 スクールカウンセラーと教職員との連携
生徒会	1 生徒会活動の活性化 2 委員会活動の活性化
	3 広報活動 4 生徒会活動の研究 5 ボランティア活動
生活指導	1 生徒指導の推進と問題行動の予防強化 2 道徳意識、規範意識の向上
	3 いじめ・不登校、配慮を要する生徒への取り組み 4 生徒の愛校心向上
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標	
生徒相談	笑顔であいさつがあふれる学校づくり
生徒会	生徒主導による各種活動
生活指導	事故がなく安心して生活できる学校づくり

2. 令和2年度の取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
生徒相談 1. 研修会への参加、そして報告。 「不登校を考える会」等からの資料プリントの配布。 2. カウンセリング希望者との日程・時間等の予約の調整。 カウンセリングを受けた生徒（保護者）の状況を把握。 スクールカウンセラーによる教職員への研修会開催。 生徒会 1. 生徒が主体的に動ける行事の運営・学校づくり（体育大会・上宮祭運営、生徒議会の開催、規範意識の向上等） 2. 委員会活動の活性化 3. 広報活動（上宮太子ニュース・説明会・地域行事参加） 4. クラブ生を主体とした学校の活性化 5. 校外ボランティア活動への参加 生活指導 1. 教員による一律指導を目指し、実践内容を改訂・明確化 大阪私学連盟で得た情報を校内に生かす取り組みの実施 2. 始業式・終業式・御忌式の際、全校生徒に指導、説諭 生徒心得遵守を促す取り組み実施・生徒自治会との連携 3. 「いじめ防止基本方針」・「行動計画」を改定・明確化 不登校、配慮を要する生徒の把握と適宜の対応を検討 4. 「学校の活気を高揚する取り組み」の実践継続 生徒自治会役員生徒の意見反映			

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準：

A 予定通り進んだ	/	顕著に成果があった	B ほぼ予定通り進んだ	/	成果があった
C あまり進んでいない	/	あまり成果がでていない	D 進んでいない	/	できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

部署名	進路指導部	担当者	
-----	-------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 令和2年度の重点目標 ※4月末までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標	
I. 進学実績の目標達成	II. 基礎学力の向上
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標	
III. 主体性を育む教育	IV. 戦略的改革

2. 令和2年度の取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
I. 進学実績の目標達成 (高校3年) a. 国公立大学14以上合格 b. 関関同立20以上合格 c. 産近甲龍80以上合格 II. 基礎学力の向上 (高校1年・2年) d. 進研模試偏差値52以上を学年の2割以上 e. 進研模試偏差値46以上を学年の5割以上 f. 模試の事前・事後指導、結果分析 III. 主体性を育む教育 g. 探究活動の推進 (高校1年・2年) h. 家庭学習の推進 IV. 戦略的改革 i. 生産性の高い進路指導体制構築 j. ICT教育の推進 k. アクティブラーニングの研究と啓蒙			

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準：

A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった	B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない	D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

--

部署名	入試対策部	担当者	
-----	-------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 令和2年度の重点目標 ※4月末までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 (1) 入試における受験者数安定・増加のための活動 (2) 効果的な広報物を制作・活用する (3) 情報の収集・共有化 (4) 今後に向けての対応策検討
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 望む受験生の安定的確保

2. 令和2年度の取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
(1) 入試における受験者数安定・増加のための活動 少子化の影響により受験者は減少傾向にある。公立中学校や塾、および受験生において、上宮太子が広く認知され、受験者数を安定・増加させるための活動を強化する。 ①公立中学校や塾などへの訪問回数を増やす。 ②受験生や保護者に直接的にアプローチできるよう地域限定の説明会を行う。 ③ICTツールを活用した広報活動を行う。 (2) 効果的な広報物を制作・活用する 高等学校への興味関心を抱くためにはホームページやパンフレット、リーフレットなどが入り口となる場合が多い。広報係との連携のうえ、効果的な広報物を制作し、募集活動に活用する。 (3) 情報の収集・共有化 受験情勢や社会の動向、各校の動きなど入試の現場は刻一刻と変化している。その変化に学校全体での対応が円滑にできるために、情報収集と情報の共有化を図り、教職員一丸となって広報活動が行えるようにする。また、上宮高校や上宮学園中学校との情報共有を発展させ、3校で連携をとり、学園全体で広報活動を行う。 (4) 今後に向けての対応策検討 少子化、就学支援金支給の動向、公立校の入試制度改革など、私立校を取り囲む状況は今後一層厳しいものになる。入試広報の側面から、将来を見据えた対応策を検討する。			

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準：

A 予定通り進んだ	/	顕著に成果があった	B ほぼ予定通り進んだ	/	成果があった
C あまり進んでいない	/	あまり成果がでていない	D 進んでいない	/	できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

部署名	国語科	担当者	
-----	-----	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 令和2年度の重点目標（4月末）

1. 授業改革による生徒の読解力・表現力の向上
2. 各学年の学習指導計画にアクティブラーニングを導入する研究（特に高1/高2学年の教育方法の改革）
あわせて、ロイロノートを軸としたIpadを授業で活かす方法の研究
3. 受験対応力向上へ向けたアプローチ（大学入試問題の研究を含む）
4. 教員の研修活動への参加、フィードバック、記述講座（教員のスキルアップ）

2. 令和2年度の取り組み内容（4月末 年度末評価は3学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
1、 授業改革による生徒の読解力・表現力の向上 ① 生徒の学習定着をはかるための方策研究 ② 読解トレーニングと読解力向上への取り組み ③ 職員同士での国語力向上についての意見交換 2、 各学年での学習指導内容の研究 ① 模擬試験・大学入試問題等を使用して生徒の到達度を確認 ② 特進コース →共通テスト、国公立の大学入試に即応できる実力養成 ③ 総合進学コース →推薦入試への対応 小論文対策 →公募制推薦・一般入試に向けた対策 学習指導内容の改善 ④ 高1/高2学年の新入試制度に向けた授業改革 →Find!7ティラナーの本格的な活用、研究、授業への導入 →ロイロノートを軸とした、Ipad活用法を研究した授業展開 3、 受験対応力向上へ向けたアプローチ ① 各学年における講習の充実 ② 教材や指導法における受験対応力強化の工夫 ③ 授業中小テストの導入による継続的な基礎力向上への取り組み ③ 国公立大学・難関私立大学の出題研究 4、 教員の研修活動への参加、教科へのフィードバック ① 予備校・大学主催の研修会やその他の学習会への積極的な参加 →入試の現状把握、教員のスキルアップ ② 教科への研修活動のフィードバック →教科会での参加活動報告、または勉強会開催 ③ 「論理エンジン講座」「記述講座」「新入試制度研究」をはじめ、 教科内の教員による勉強会実施			

3. 今後取り組む内容（3学期終業式）

--

部署名	社会科	担当者	
-----	-----	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 令和2年度の重点目標（4月末）

- (1) 授業の厳正化と社会科としての強化
- (2) 教科会の活性化
- (3) 入試問題の研究（本校入試問題及び大学入試問題）

2. 平成31年（令和元年）度の取り組み内容（4月末 年度末評価は3学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
(1)①「立腰」から始まる授業に集中できる雰囲気づくりをする。 ②社会科の授業が好きになる工夫をする。 ③高校において、特進コースは平均偏差値 60 以上、総合進学コースは平均偏差値 50 以上をめざす ④授業アンケートを意識した授業を実施し、総合評価で 80%を上回る。 ⑤社会科に関する研修会などへの積極的な参加。 ⑥高校3年生における社会科を入試で捨てさせない意識付け。 (2)①教科会の可能な限りの実施と科目間の連携。 ②授業見学会実施 ③思考力・判断力・表現力を意識した、新課程研究を始める。 (3)①大学入試制度改革に向けた上宮太子高校の入試問題にふさわしい内容にするための研究。 ②大学入試センター試験、難関私立大学等の入試問題を研究し、高得点につながる科目担当者による研究。			

3. 今後取り組む内容（3学期終業式）

部署名	数学科	担当者	
-----	-----	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 令和2年度の重点目標 ※4月末までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 1. 授業の厳正化 2. 数学力の向上 3. 教科会の活性化 4. 研修への積極的な参加
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 1. 特進Ⅰ類、特進Ⅱ類、総合進学コース、各コースにおける指導方針の統一 2. 理系進学希望者の増加 3. 理系大学進学率の向上

2. 令和2年度の取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
1. 授業の厳正化 ①個々のより深い教材研究と教材の共有 ②研究授業の実施 ③各コースの特性を見据えた指導計画と実践 2. 数学力の向上 ①家庭学習定着のための内容・量の適正化と推進 ②各学年の偏差値2ポイントアップを目指した模擬試験対策およびやり直しの徹底 ③能力に応じた補習、講習の実施 ④大学入試問題の研究・研修と生徒への還元 ⑤特進コースの国公立大合格率向上 (最後まで目標を持って諦めさせない) ⑥総合進学コースの一般入試合格率向上 (指定校・A0入試に頼らず、一般入試まで頑張らせる) 3. 教科会の活性化 ①連絡の徹底と教科内の共通認識 ②教科における情報交換と研修 4. 研修への参加 ①アクティブラーニングやICTについての研修を受け、学んだことを教科会で検討し、導入していく。			

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

部署名	理 科	担当者	
-----	-----	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 令和2年度の重点目標（4月末）

昨年度までの目標から継続し、以下の2つを重点目標とする。

- ① 指導力を向上し、授業内容を充実する。
- ② 大学入試に対応できる学力をつけさせる。

2. 令和2年度の取り組み内容（4月末 年度末評価は3学期終業式）

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
① 指導力を向上し、授業内容を充実する a 実験や観察を多く取り入れ、理科に対する興味・関心を高め、科学的自然観を養う。また、指導方法を教科内で共有する。 b 大学受験に向けた各学年における実力養成のための方法や課題の研究および実践 c 授業見学やFINDアクティブラーナーを使った授業研究を実施し、これをもとに教科会で意見交流を行う。 d 進研模試や関西国公立、関関同立などの入試問題研究を行う。 e I C Tを用いた授業について研究し、新課程研究を進める。 f 観点別学習状況の評価基準を検討する。			
② 大学入試に対応できる学力をつけさせる g 生徒の実情に合わせた補講習・単元テストを適宜実施し、学力向上につなげる。 h 「やり直しノート」を作成・提出させ、復習の重要性を意識させる指導を徹底する。また、課題の与え方について検討する。			

3. 今後取り組む内容（3学期終業式）

--

部署名	英語科	担当者	
-----	-----	-----	--

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和2年度の重点目標 ※4月末までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標

**オンライン英会話やロイロノートを活用して音声指導を行い、英語に興味を抱かせる。
また、予習・復習の習慣をつけさせて、模試成績を2ポイント UP させる。**

(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標

4 技能を意識した授業を目指す。

2. 令和2年度の取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①英語力の向上 ・ 予習や宿題を毎日課し、ノートチェックを <u>ロイロノート</u> を利用して <u>毎日点検する。</u> ・ セクション終了毎に小テストで復習の定着。 (特進は毎時間小テスト実施) ・ <u>1, 2年生はオンライン英会話を利用して</u> Speaking, Listening の力をつける。 ・ 辞書を毎回持参させ、4～5回は活用する。 ・ 英検に向けてオンライン英会話を活用する。 ・ <u>速読教材を使って共通テスト対策をする。</u> ②指導法の研究 ・ 教員間の授業を積極的に見学し、改善に努める。 ・ 授業改善に関わる書籍購入の推進 ・ 郊外の研修会に積極的に参加。			

※遂行度: 各項目の進捗状況 / 達成度: 各項目の達成・評価状況

※評価基準: A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

部署名	保健体育 科	担当者	
-----	--------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 令和2年度の重点目標 ※4月末までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ・集団行動を通じて、社会生活に適応できる姿勢・礼儀などを習得する。 ・各種スポーツを通じて、技能向上と体力作り・協調性を習得する。 ・デジタル教科書を活用した、授業も研究し、実践できるようにしていく。
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 ・新興感染症への対応 (コロナウイルスに対する知識、予防方法、罹患時の対応など)

2. 令和2年度の取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
時間を守る 授業開始時間に遅れない 集団行動の様式の習得と実践(静と動) 挨拶・姿勢・集解散・方向変換・ラジオ体操 服装を正す 忘れ物を無くす・腰パン・半袖シャツを出さない・体操帽着用 各種目の技術習得 個人技能と集団技能 運動することの必要性、大切さ 生活習慣と生涯健康の関わりを理解する 各種目のルールの理解 ゲームの運営・ルール習得 I C T の導入 デジタル教科書を活用した、授業も研究し、実践 心肺蘇生法の習得 胸骨圧迫・AED使用方法			

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準：

A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった	B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない	D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

Empty box for future content

部署名	芸術科	担当者	
-----	-----	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 令和2年度の重点目標 ※4月末までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標

1. 行事への協力、取り組み。

(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標

2. 表現力を伸ばし、感性を磨き、豊かな心を養う。
3. 評価、評定の方法について協議する。

2. 令和2年度の取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
1. 行事への協力、取り組み。 ①聖徳書道展への協力。 ②芸能鑑賞等、教務部との連携。 2. 表現力を伸ばし、感性を磨き、豊かな心を養う。 ① 表現力を伸ばすための基礎技術の指導、および基本的な知識をつける。 ・音楽 演奏（器楽、声楽）の基本技術の指導。 音楽史の学習。 ・美術 絵画表現（描写、着色）と立体表現の指導。 美術史の学習。 ・書道 楷書、行書における用筆法の指導。 書道史の学習。 3. 評価、評定の方法について協議する。 ① 平常点の割合の研究、分析等を行う。			

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

部署名	家庭科	担当者	
-----	-----	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 令和2年度の重点目標 ※4月末までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ① 技術・家庭科に対する学習意欲の向上 ② 実践的・体験的な活動、生活を改善する意欲と実践的な態度を育成 ③ 男女共同参画社会を意識した教育推進 ④ 教材の整備 ⑤ 実践的授業の実施計画
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 ・興味関心を高める教材の選定・授業の工夫（プレゼンテーションによる評価方法の確立など）

2. 令和2年度の取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①家庭科に対する学習意欲の向上 - 授業プリントの内容を深め、関連した資料や情報を添付する。 (本物志向の展開：本物を見て触らせる) - 未提出者等は催促し、必ず提出させる。 - 他教科との連携を図った授業を展開する。 ②実践的・体験的な活動、生活を改善する意欲と実践的な態度を育成 - ものづくりの体験的活動を通して、家族の人間関係や家庭の機能を理解させる。 - 生活に必要な基礎的・基本的な知識・技術を身につけさせ、生活を工夫し創造する能力を育成する。 ③男女共同参画社会を意識した教育推進 - 男女共に協力し、助け合えるよう自立を促す。 ④教材の整備 - 環境に配慮して主体的に生活を営む能力を育てるため、自ら課題を見だし展開できる問題解決的な教材を検討する。 - 情報化に対応し、生活と家庭科との関わり、情報手段の活用内容の充実を図る。 ⑤実践的授業の実施計画 - ものづくりは行程が重要であるため、構造、材料・製作、仕上げを、計画的に実施する。 - 全ての実習に於いて、「安全面」「備品管理」を徹底する。			

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準：

A 予定通り進んだ	/	顕著に成果があった	B ほぼ予定通り進んだ	/	成果があった
C あまり進んでいない	/	あまり成果がでていない	D 進んでいない	/	できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

部署名	情報科	担当者	
-----	-----	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 令和2年度の重点目標 ※4月末までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ① より良い授業内容にするための検討 ② 新学習指導要領における教材研究 ③ 大学入試制度改革に関する情報収集
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標

2. 令和2年度の取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
① より良い授業内容にするための検討 ・ 学習効果の高い実習課題の検討 ・ 座学で扱う内容の再構成 ② 新学習指導要領における教材研究 ・ プログラミング教育に関する情報収集 ・ カリキュラムを含めた授業計画案の検討 ③ 大学入試制度改革に関する情報収集 ・ 「情報科」大学入試導入に関する情報収集 ・ 「情報科」大学入試導入に関する研修会への積極的参加			

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

--

部署名	宗教科	担当者	
-----	-----	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 令和2年度の重点目標 ※4月末までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ①校訓、学順の理解 ②授業内容のさらなる充実 ③宗教行事の理解と実践
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 ICTを活用した授業の実践、自ら考えを表現できる力の育成

2. 令和2年度の取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
① 校訓、学順の理解 (1) 授業を通じて「挨拶」の実践を徹底する。 (2) 礼儀作法について学習、実践をする。 ② 授業内容のさらなる充実 (1) 授業開始時の一枚起請文奉読を徹底する。 (2) 生徒の理解に適した授業を展開する。 ③ 宗教行事の理解と実践 (1) 授業において宗教行事の由来、意義を学習する。 (2) 生徒参加による宗教行事の実践をする。			

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

--

部署名	高 1 学年	担当者	
-----	--------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 令和2年度の重点目標 ※4月末までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 (1) 校訓「正思明行」・学順の実践 (2) 生徒・保護者・教員の意味疎通 (3) 特に英語・国語・数学を中心とした学力向上のための方策と学習習慣の確立 (4) 担任団・学年担当者・各分掌との連携・意味疎通
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 (1) 個々の将来の目標設定・目標を意味した進路指導の実践 (2) 社会の一員であることの意識の定着

2. 令和2年度の取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
(1) 法然上人の教え・校訓「正思明行」・学順を意味した生徒指導 (2) 家庭と学校との綿密な連携 (3) 落ち着いた環境づくり ①「立腰」による落ち着いた授業環境をつくる ②早朝テストの実施による、家庭や通学時間を利用した学習の習慣の確立 ③定期考査前の補習の実施 ※総合進学コースの目標 ①模擬試験で、英語・数学・国語の全国偏差値50を目指す ※特進Ⅱ類コースの目標 ①模擬試験で、英語・数学・国語の全国偏差値55を目指す ※特進Ⅰ類コースの目標 ①模擬試験で、英語・数学・国語の全国偏差値60を目指す (4) 教員間の意味疎通 ①学年担当者会議の可能な限りの実施 ②日常の会話による生徒の情報交換			

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準：

A 予定通り進んだ	/	顕著に成果があった	B ほぼ予定通り進んだ	/	成果があった
C あまり進んでいない	/	あまり成果がでていない	D 進んでいない	/	できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

--

部署名	高2学年	担当者	
-----	------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和2年度の重点目標 ※4月末までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ①校訓「正思明行」・学順の実践に基づいた人間力の向上 ②生徒・保護者・教員の意思疎通 ③基本的な生活習慣、学習習慣の確立 ④担任団・学年担当者・各分掌との連携・意思疎通
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 ① 大学進学実績の向上

2. 令和2年度の取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①・校則遵守の徹底 (立腰、挨拶、服装、頭髮、言葉遣いなど) ・行事等では積極的に参加するよう促し、生徒一人ひとりに責任を持たせる。 ・探究学習を利用して、プレゼンテーション能力を身につけさせる。 ② 学期に1回は必ず生徒との二者面談を実施し、日々生徒の様子を把握して、保護者と常に連絡を密にする ③・授業に対して真剣に取り組む姿勢を作るため、授業開始に立腰を行うことで心を落ち着かせる。 ・目標大学を明確にして、自学習の習慣を身につけさせ、家庭でも毎日机に向かって、復習・予習を自分でできるようにする。 ・授業と補講習を充実させ、特進コースは国公立大学、総合進学コースは関関同立を一般入試で合格するだけの実力をつけさせる。 ④・担任団のみならず、学年担当者、教科担当者との連絡を密にして、情報を共有し、全職員が同じ方向性で指導にあたり、全員で生徒の夢・希望を応援する。			

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準：

A 予定通り進んだ	/	顕著に成果があった	B ほぼ予定通り進んだ	/	成果があった
C あまり進んでいない	/	あまり成果がでていない	D 進んでいない	/	できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

部署名	高3学年	担当者	
-----	------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和2年度の重点目標 ※4月末までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ① 生徒・保護者・教員的意思疎通 ② 自立心を養う ③ 学力の向上 ④ 希望進路実現に向けてのサポート
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標

2. 令和2年度に取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①・家庭との連絡を密にして、クラス担任が知り得た情報を、学年団教員全員が共有し同じ方向性を持って生徒の指導にあたる。 ②・授業を真剣に受けたり、課題をきっちり提出するのは当たり前前のことであって、家庭での自分のための受験勉強をいかに増やすかが大事である。一人ひとりに受験生であることを実感させ、個々の目標を明確にさせて、その実現に向けて行動させる。 ③・限られた時間の中での授業内容や提出課題、早朝や補習の効果的な実施方法を工夫する。 ・総合型選抜、学校推薦型選抜等で合格が内定した生徒に対するケアや、大学入学共通テストや一般選抜に向けて勉強する生徒に対する支援を両立させる。 ④・個々に希望進路がそれぞれ違うので、その都度、二者面談をおこない、生徒の現状を的確に把握し、担任・学年団での情報の共有をしながら生徒を的確な進路に導いていく。 ・模試を有効的に活用し、的確な進路指導を行う。 ・総合進学コースの生徒についても、最後まで諦めない強い気持ちを持たせて受験に望ませる。 ・特進コースは国公立大学に目標を定め、大学入学共通テストで高得点につながるように指導をする。 ・進路指導部と連携をとり、個々の生徒の対応に当たる。			

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

--

部署名	人 権 教 育	担当者	
-----	---------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 令和2年度の重点目標 ※4月末までに記入

（短期目標）※本年度に取り組む目標

- ① 学年の現状に合わせた新しい教材を使った教案の作成
- ② 育てる人権教育の実践
- ③ いじめ防止対策委員会の年間計画に基づく人権教育の実践

（中・長期目標）※数年計画で達成したい目標

学校生活の中で人権問題（友達との関係、クラブ活動など）を認識する。

2. 令和2年度の取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①教材の開発 生徒の実態を考慮した教材の開発 SNS、インターネットと人権などに関する新しい教材を開発する ②育てる人権教育の実践 自他を理解した集団づくり（クラス、クラブ活動） 相手の立場、気持ちを理解する ③生活アンケート 生活アンケートを各学期の最後に実施する、 差別、偏見をテーマにした人権教育LHRの実践			

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準：

A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった	B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない	D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

部署名	保健管理	担当者	
-----	------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 令和2年度の重点目標 ※4月末までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 1. 保健室の機能を充実し、保健管理の組織的推進を図る 2. 自立的な健康の保持・増進の確立をめざした保健教育の実践 3. 健康相談活動の充実と各分掌と連携、情報の共有化 4. 学校保健組織活動の円滑な推進
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 学校医をはじめとする学校保健委員会の組織化、推進化を図る。 Health Care Room (保健室のHP) 等で情報発信に努め、生徒、保護者の学校評価のアンケート結果を高める。

2. 令和2年度の取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
1、保健室の機能を充実し、保健管理の組織的推進を図る ① 学校感染症の予防と発生時の迅速な対応(新型コロナウイルス感染症予防対策) ② 学校保健情報の集約 ③ 救急処置の迅速な対応、けがの予防教育(数値化) ④ 配慮を必要とする生徒の支援について、個別のニーズに応じた支援のあり方を示し、共通理解を図る 2、自立的な健康の保持・増進をめざした保健教育の実践 ① 感染症予防に関する保健指導の充実 ② 本校が抱える心身の健康課題を見出し、個別・集団的保健指導の実践、将来に影響を及ぼす健康問題を研究 ③ 保健室ホームページの充実と関係医療機関との連携 3、健康相談活動の充実と各分掌と連携、情報の共有化 ① 相談しやすい環境づくりとその問題を的確に把握し、全教職員と情報交換を密に図る ② SCと生徒相談、関係職員との連携、共通理解を図る ③ 不登校、いじめ事象等の迅速な把握と減少をめざす。 4、学校保健組織活動の円滑な推進 ① 学校保健委員会、労働安全衛生委員会の組織的運営の確立、臨時委員会の適宜開催 ② 生徒保健委員会の主体的な活動のサポート(学級の健康管理や啓発活動、心身の健康に関する情報発信)更にその活動を担任等に評価、報告する			

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準： A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

部署名	図書教育	担当者	
-----	------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 令和2年度の重点目標 ※4月末までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ①図書室の運営管理の充実 ②図書の充実 ③読書活動の推進 ④利用生徒数の向上
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 ・蔵書管理システムの有効活用と蔵書登録・管理の徹底

2. 令和2年度の取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①図書室の運営管理の充実 (1)開館時間の安定 (2)館内内の整備 ②図書の充実 (1)購入図書の選定および購入 (2)希望図書への配慮 (3)蔵書の整理 ③読書活動の推進 (1)読書の啓発 (2)図書館だよりの定期的な発行 ④利用生徒数の向上 (1)図書室利用の推進 (2)委員会の活動の推進			

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

--

部署名	広 報	担当者	
-----	-----	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 令和2年度の重点目標 ※4月末までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ・本校ホームページの更なる改良。 ・ブログの更新回数増加とアップ内容の精査。 ・近隣地域に向けた広報活動の充実。(道路沿いの横断幕、バス側面の広告等) ・SNS活用の検討。 ・広報委託業者の見直し。
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 ・学園財政を鑑み、広報効果が低い紙媒体を削減し、広報物の精査を図る。

2. 令和2年度の取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
(1) 本校ホームページの更なる改良。 ・ホームページ管理業者と連携を図り、バナー等利便性の高い状態を維持する。 (2) ブログの更新回数増加とアップ内容の精査。 ・広報担当で担当曜日を決め、日常的に学校の情報を発信することを目指す。 (3) 近隣地域に向けた広報活動の充実。 ・見やすく、インパクトのあるものを作成する。 (4) SNS活用の検討。 ・時代に合わせた広報活動を研究する。 (5) 広報委託業者の見直し。 ・本校の現状を理解し、広報物作成を依頼できる業者を選定する。			

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

部署名	業務推進室	担当者	
-----	-------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 令和2年度の重点目標 ※4月末までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標
終業式)

- ① 共有文書等のデータによる活用
- ② 個人情報の管理の徹底
- ③ 環境の充実
- ④ 業務軽減への方策

(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標
⑤ クラウドサービスの活用

2. 令和2年度の取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
① 共有文書等のデータによる活用 ・ 各種書類の印刷量の削減およびデータの活用			
② 個人情報の管理の徹底 ・ 定期的な個人情報の安全管理に対する教員への注意喚起 ・ 個人データの管理の徹底			
③ 環境の充実 ・ ファイルサーバ内のフォルダの整理 ・ 個人PCへのセキュリティソフトの導入の徹底			
④ 業務軽減への方策 ・ 分掌内での情報の共有化の徹底 ・ 効率的な業務の分担の実現 ・ 作業マニュアルの改訂			
⑤ クラウドサービスの活用 ・ クラウドサーバの利用			

※遂行度: 各項目の進捗状況 / 達成度: 各項目の達成・評価状況

※評価基準:

A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった	B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない	D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

--

部署名	学校評価	担当者	
-----	------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 令和2年度の重点目標 ※4月末までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ①学校評価に関する企画・立案・実施 ②学校評価の報告書の作成・提出 ③授業アンケートに関する企画・立案・実施 ④学校関係者評価委員会の企画・立案・実施
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 各アンケートの活用方法についての検討

2. 令和2年度の取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①令和2年度各部署からの報告書の資料作成 ・各部署からの重点目標の確認 ・各部署からの中間評価の確認と点検 ・各部署からの年度末評価の点検と資料作成			
②令和元年度の学校評価の報告書のホームページ用資料作成			
③授業アンケートの実施とその結果の有効活用の検討			
④学校関係者評価に対する資料作成			

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準：

A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった	B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない	D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

--

部署名	事務室	担当者	
-----	-----	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 令和2年度の重点目標 ※4月末までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ①適切かつ効率的な事務処理と質のさらなる向上 ②企画・運営に関する事務(特色のある学校づくり) (継続) ③校内・教育環境のさらなる整備 (継続)
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 学校の課題を真摯に考え地域のニーズに応じた特色のある学校作りを生徒獲得に向けて教員とともに実現していく。

2. 令和2年度の取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
① 適切かつ効率的な事務処理と質のさらなる向上 ・上宮本部からの移動職員、新任職員の配属によりコミュニケーションをとりながら確実に業務を進め、組織的な業務の質の向上を目指す。 ・普段の教職員とのコミュニケーションにより子どもたちや保護者の意見を聞きながら・生徒、保護者への対応についても相手の立場に立ち親切かつ丁寧さを心がけ、子どもたちや保護者が安心できるような事務室としての役割を果たす。 ・天王寺事務所との連絡を密にとり相互の連絡ミスを防ぎ、また業務の効率化を図る。 ・今まで慣例的に行っていた業務・作業の内容と工程を適正であるか見直し、向上を図る。不必要であれば廃止も検討する。 ② 企画・運営に関する事務(特色のある学校づくり) ・創意工夫を生かした特色ある学校づくりを、進めていき、HP・学校案内・説明会をうまく活用しながら情報発信をする。 ・教員と同じ方向を見据え、同じ目標を共有し、積極的に学校の課題を把握し、その課題に対する改善策の提案・実現を考えていく。 ③ 校内・教育環境のさらなる整備 (継続) ・新型コロナウイルスの感染拡大を受け臨時休校が広がり、学校に通えず外出の機会も減る中で、子どもも親も不安を抱えている。今回のコロナの事象に関わらず将来を見据え、家にいながら学べるオンライン教育(遠隔教育)等を考えていく必要があり、これに必要な環境を整備し子どもたちが新たな学びに触れることができるよう検討していく。			

※遂行度: 各項目の進捗状況 / 達成度: 各項目の達成・評価状況

※評価基準: A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

令和 2 年度

各部署の中間評価報告書

上宮太子高等学校

学校評価委員会

令和２年度各部署の中間評価

報告書

部署名	教 務 部	責任者名	
------------	--------------	-------------	--

取り組み内容に対しての中間評価（項目別でも、全般的でも可）

（１）教務運営システムの整備・効率化

⇒昨年度から週の初めの職員朝礼の内容を、校内ネットワークで配信するシステムを運用している。今年度は新型コロナウイルスに伴う例年にはない行事（すぽかるふえす２０２０、ＵＴフェスタとオープンキャンパスの融合型行事）を実施し、生徒会・入試対策部等との連携のもと生徒が主体となるような運営を行ってきた。今年度限定の行事もあるが、実施後の反省点を活かして来年度に向けて改善を図ってきたい。

（２）有効な指導体系の継続検討

⇒３コース制導入に伴いコースの特色が出るような考査問題の作成を依頼している。
また２０２２年度からの新カリキュラムに向けて、検討会を重ねている。

（３）国際理解教育の推進

⇒オンライン英会話を導入し活用している。

（４）オンライン授業の導入

⇒ICT 教育推進委員を中心に、休校期間においても Zoom によるオンライン授業が出来る校内体制を確立することが出来た。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可）

【年度末に向けての検討事項】

- ① ２０２２ 年からの新カリキュラムに伴う教科主任との検討会
- ② 労働時間の遵守及び就業システムを円滑に運営するため、事務所・総務との連携。
- ③ 教務内規・考査規定の再検討
- ④ ICT を活用した更なる授業の改良

※課題は山積の状態である。積極的に取り組んでいきたい。

令和2年度各部署の中間評価

報告書

部署名	生徒指導部	責任者名	
-----	-------	------	--

(校務分掌—学校評価—令和2年度—02 中間評価—02 中間部署名)

10月31日(土)までに上記フォルダーに入れておいてください。

取り組み内容に対しての中間評価(項目別でも、全般的でも可)

生徒相談
 研修会への参加・カウンセリングの日程調整等順調に進んでいる。
 スクールカウンセラーによる教職員への研修は、3学期に予定している。

生徒会
 行事が中止になるなか、「UT すぼかるふえす 2020」「UT フェスタ」は生徒が主体的に
 行事進行を行えた。
 委員会活動は、担当教員が中心となって活性化しつつある。
 上宮太子ニュースは学期に1回発行している。
 地域行事、校外ボランティアは今年度中止。
 部活動は、顧問と一体となって活発な活動が見られる。

生活指導
 1・2・3については、担任・生活指導担当教員との協力のもと実行できている。
 4については、今後も継続して検討していく。
 校長先生との対談会で生徒との意見交換をし、生徒心得の見直し・検討を行う。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容(項目別でも、全般的でも可)

生徒相談
 問題点は特になし。

生徒会
 インターアクト部設立は来年度に延期。

生活指導
 生徒の規範意識向上の強化に当たる。

令和２年度各部署の中間評価 報告書			
部署名	進路指導部	責任者名	
取り組み内容に対しての中間評価（項目別でも、全般的でも可） I. <u>進学実績の目標達成</u>（a. 国公立１４　b. 関関同立２０　c. 産近甲龍８０） 進学実績に関する項目なので、現時点での評価はできない。 指定校推薦制度を利用した生徒は４４名で、昨年度より６名減少した。 II. <u>基礎学力の向上</u>（d. 偏差値５２以上を２割　e. 偏差値４６以上を５割 f. 模試の事前・事後指導、結果分析） 高校１年で偏差値４６を超えている生徒の割合は２割強であった。 高校２年で偏差値４６を超えている生徒の割合は２割弱であった。 模試の結果を受けて、学年ごとに分析会議を行った。今後の指導方針について一定の方向性を示した。 III. <u>主体性を育む教育</u> g. <u>探究活動の推進</u> 学年と連携をとりつつ、おおむね予定通りすすんでいる。 h. <u>家庭学習の推進</u> 進路指導部として取り組んでいるものではないが、ＩＣＴサービスの利用に伴い一定程度の定着がうかがえる。 IV. <u>戦略的改革</u>（i. 生産性の高い進路指導体制構築　j. ＩＣＴ教育の推進 k. アクティブラーニングの研究と啓蒙） あまりすすんでいない。業務全体の見直しについて、改善の余地がある。			
現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可） I. a. b. c. 高３学年団と連携しつつ、指導法を工夫していく。 II. d. e. f. 高１、高２学年団と連携しつつ、指導法を工夫していく。 III. g. 高１、高２学年団と連携しつつ、より良いものを作り上げていく。 h. ＩＣＴサービスを活用しながら進めていく。 IV. i. j. k. 業務の削減や分担について、検討を続ける。			

令和2年度各部署の中間評価

報告書

部署名	入試対策部	責任者名	
取り組み内容に対しての中間評価（項目別でも、全般的でも可） （１）入試における受験者数安定・増加のための活動 ・今年度はコロナウイルス感染症拡大に伴う休校措置等の関係で、年度当初の中学校や塾への訪問による渉外活動ができなかった。しかしながら、電話等での渉外活動を行い、例年と同様のコンタクトを取ることができた。 ・Zoom によるオンライン個別相談会を定期的に行い、受験生向けの渉外活動を新たに行った。 ・校外での説明会においては、各会場でコロナウイルス対策として入場制限が設定されることが多く、例年に比べ個別相談で対応した数が少なかった。 （２）効果的な広報物を制作・活用する ・リーフレット関係を刷新し見栄えのよいものにしたため、リーフレットを手にした受験生の反応はよかった。 （３）情報の収集・共有化 ・渉外活動や研修会参加において情報収集は積極的に行っている。入試対策部内での共有は概ね図れているが学校全体での共有は達成できていない。 （４）今後に向けての対応策検討 ・収集した情報をもとに、検討中である。			
現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可） （１）について ・コロナウイルス感染症に関する対策が各箇所で行われており、現在は通常の訪問による渉外活動ができている。今後も塾や中学校を通し、積極的に案内をかけていく。 ・説明会への動員数を増やすよう広報活動を行っていく。 （２）について ・現状のものを最大限活用して広報活動を行う。 （３）について ・学校全体での情報共有化が行えるような方策を検討する。 （４）について 今年度は近隣の学校の動きが目立つ。他校の広報戦略や取り組みも参考にしながら具体的な動きにつなげていけるよう、部内での意見を集約し検討していきたい。			

令和2年度各部署の中間評価

報告書

部署名	国語科	責任者名	
1、授業改革による生徒の読解力・表現力の向上 各学年、意欲的に取り組んで頂いているが、まだ道半ばというところである。 2、各学年での学習指導内容の研究 iPadを使用した授業展開については、ロイロノートを先駆的に使用し、様々な方法で生徒たちの意識向上につながっていると感じている。 模試直前の対策授業については、特進クラスにおいてはかなり浸透してきている。取り組みが結果に結びつくことを期待している。 3、受験対応力向上へ向けたアプローチ 各学年、それぞれに工夫したアプローチを行っている。特に今年はコロナ禍の中での受験対応、共通テスト初年度ということでもかなり対応が難しいが、頑張っていきたい。 4、教員の研修活動への参加、教科へのフィードバック 今年はコロナ禍でほとんど研修会への参加がオンラインになったが、相変わらず積極的な参加を続けている。 授業改革、入試改革への対応を軸に、今後もしっかり取り組んでいきたい。			
現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可） 変革時期にあり、取り組みをアップデートしなければならないものが多い。 その中で、休校措置が再び起こらず、後半の授業がスムーズに進むことを祈りつつ、目の前の生徒たちがしっかりと取り組めるよう、前向きな努力を重ねていきたい。			

令和2年度各部署の中間評価

報告書

部署名	社会科	責任者名	
(校務分掌—学校評価—令和2年度—02 中間評価—02 中間部署名) (1)「立腰」から始まる授業に集中できる雰囲気づくり、社会科の授業が好きになる工夫をすることにおいては、それぞれの先生方の工夫がみられている。 高校において、特進コースは平均偏差値 60 以上、総合進学コースは平均偏差値 50 以上をめざすことに関しては、この提出した後に、高校2年で初の社会を含む模試が行われる。 (2)教科会の可能な限りの実施と科目間の連携などは適宜とれているように思われる。 授業見学会実施や思考力・判断力・表現力を意識した、新課程研究は今からの部分である。 (3)①大学入試制度改革に向けた上宮太子高校の入試問題にふさわしい内容にするための研究。②大学入試センター試験、難関私立大学等の入試問題を研究し、高得点につながる科目担当者による研究。に関しては継続中である。			
現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可） 授業見学会実施や思考力・判断力・表現力を意識した、新課程研究は取り組みたいと考えつつも、いまだに進行できていないところが、課題である。			

令和2年度各部署の中間評価

報告書

部署名	数学科	責任者名	
1. 授業の厳正化 ⇒ コロナの影響もあり、ZOOMによるオンライン授業を実施したため、生徒の反応を伺うのは難しかったが、各教員実現に向けて取り組んでいた。 2. 数学力の向上 ⇒ オンライン授業を実施する中で、「ロイロノート」を積極的に活用し、自宅学習が充実した。その中で家庭学習の習慣化は図れている。 3. 教科会の活性化 ⇒ 教科会は5段階評価の会議も多く例年より多く実施されていた。 4. 研修への参加 ⇒ コロナの影響を受け、アクティブラーニングやICTについての研修参加は難しかった。 コロナウイルスの影響を受け、通常授業を取り戻すことが第一で、何とか現状を取り戻すことができているが、発展させるのは難しい状況であった。逆にICTを積極的に活用し、多くのことを教員が学び、生徒に還元している。			

令和2年度各部署の中間評価

報告書

部署名	理科	責任者名	
① 指導力を向上し、授業内容を充実する a 実験や観察を多く取り入れ、理科に対する興味・関心を高め、科学的自然観を養う。 また、指導方法を教科内で共有する。 →各科目ご担当の先生方の尽力により、継続的に実験を授業に取り入れている。 科目内での教員間の情報共有や意見交換も引き続き行われている。 b 大学受験に向けた各学年における実力養成のための方法や課題の研究および実践 →各科目において、生徒に応じたより良い指導法の研究、実践が行われている。 c 授業見学やFIND アクティブラーナーを使った授業研究を実施し、これをもとに教科会で意見交流を行う。 →意見交流はできていない。各々の授業研究は行われている。 d 進研模試や関西国公立、関関同立などの入試問題研究を行う。 →各々においての授業研究は行われている。 e ICTを用いた授業について研究し、新課程研究を進める。 →例年に引き続き、改良を加えながら実践している。 f 観点別学習状況の評価基準を検討する。 →改良を加えながら実践している。 ② 大学入試に対応できる学力をつけさせる g 生徒の実情に合わせた補講習・単元テストを適宜実施し、学力向上につなげる。 →各科目において積極的に実践されている。 h 「やり直しノート」を作成・提出させ、復習の重要性を意識させる指導を徹底する。 また、課題の与え方について検討する。 →上記 f にも拘わっており、各科目内において実践されている。			

令和2年度各部署の中間評価

報告書

部署名	英語科	責任者名	
①英語力の向上にむけて 各先生方がこまめに予習のノートチェックをしています。ロイロノートを使ってするようになり、少し時間短縮できるようになりました。 復習のための小テストを特進クラスでは実施してくれています。 総合進学クラスへの実施徹底は手が回りません。 セブ島のオンライン英会話を今年度初めて1、2年生全クラスに導入しましたが、楽しんで取り組んでいるようです。 ② 総合進学での研究授業を実施する予定でしたが、3年生が入試準備に追われて実施できませんでした。			
現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可） 特進クラスへの取り組みはどの学年も十分すぎるほど出来ています。 来年度は総合進学コースにも力を入れたいと思います。			

令和 2 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	保健体育科	責任者名	
(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ・ 集団行動を通じて、社会生活に適応できる姿勢・礼儀などを習得する。 高校入学時に 1 年生は徹底して集団行動を行うのだがコロナによる休校及びリモート授業などで少し遅れている。通常授業の開始時に補う形で今も実践中である。 ・ 各種スポーツを通じて、技能向上と体力作り・協調性を習得する。 技能体力面ではコロナの影響もあり例年に比し遅れている。ただ協調性についてはついてきていると思慮する。 ・ デジタル教科書を活用した、授業も研究し、実践できるようにしていく。 リモート授業などを実際に行ったのでいつもよりは実践できている。 (中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 ・ 新興感染症への対応 (コロナウイルスに対する知識、予防方法、罹患時の対応など) まだまだ理解できない			
現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容 (項目別でも、全般的でも可) コロナ対策での遅れを取り戻す。 			

令和2年度各部署の中間評価

報告書

部署名	芸 術 科	責任者名	
-----	-------	------	--

取り組み内容に対しての中間評価

(1) 行事への協力、取り組みについて。

- ・ 聖徳書道展において案内発送、展示のレイアウト及び展覧会の運営に協力できた。
- ・ UT すぽかるふえす 2020 において文化的な発表面で、協力できた。

(2) 表現力を伸ばし、感性を磨き、豊かな心を養う。

- ・ 三科目とも実技を中心に行いながら、歴史的なことや学問的なことにも触れ、授業が進められている。

(3) 評価評定の方法について協議する。

- ・ 教科会にて何度か評定の在り方について話したが、今も進行中である。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

- ・ 芸術は、五教科では学べない部分を教えるべきだと考えているので、評価、評定についてもどうあるべきか、継続して考えていきたい。

令和2年度 中間評価

報告書

部署名	家庭科	責任者名	
-----	-----	------	--

① 家庭科に対する学習意欲の向上

提出することや内容を整理することの重要性を理解させ、当たり前を自覚させることに努めている。

② 実践的・体験的な活動、生活を改善する意欲と実践的な態度を育成

高校2年生は意識も高まり、意欲的に考えを深めることができ、発言ができています。

専門的な知識に戸惑いながらも、生活の中から学習することの大切さを感じている。

③ 男女共同参画社会を意識した教育推進

男女間だけでなく、LGBT などについても言動など気をつけて指導している。

④ 教材の整備

今整備されているもので、実習が行えているので、修理や修繕で補い、消耗品は補習する。

⑤ 実践的授業の実施計画

今年度より2単位になったので、より有効な実習ができるよう、情報を収集している。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可）

今年度より通年で2単位になったので、授業ペースがスムーズで、実習も行いやすいので、さらに創意工夫して、意欲を高めたい。実習・実践・課題の内容を精査し、デジタルデバイスを活用した授業も考えていきたい。ただ、「使うこと」が目的にならないよう、あくまでもツールとしての活用を目指していきたい。

プロジェクターによる授業のマンネリ化があるので、より実用的な内容を高校生に伝えやすくし、工夫していきたい。特に、3学期は消費者生活の分野でもあり、18歳よりさまざまな契約が可能になる。今以上に若者の契約トラブルが増えることが予測されるので、消費者庁や国民生活センターからの公的な情報はもちろんだが、あらゆる消費者トラブルにアンテナをはって、生徒たちに授業の中で注意喚起を行っていきたい。

新型コロナウイルスによる生活様式の変化に対しても、前向きな取り組みを自分で考えていけるような授業を展開し、家族が、友人が協力しながら先を見据えた行動ができるよう提案もしていきたいと考えている。

令和2年度各部署の中間評価

報告書

部署名	情報科	責任者名	
取り組み内容に対しての中間評価（項目別でも、全般的でも可） ① より良い授業内容にするための検討 ・ 学習効果の高い実習課題の検討は、行っている。 ・ 座学で扱う内容の再構成はできている。 ② 新学習指導要領における教材研究 ・ プログラミング教育に関する情報収集は行っている。 ・ カリキュラムを含めた授業計画案の検討は進んでいない。 ③ 大学入試制度改革に関する情報収集 ・ 「情報科」大学入試導入に関する情報収集は随時行っている。 ・ 「情報科」大学入試導入に関する研修会への積極的参加は、現時点ではできていない。			
現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可） ① ・ 学習効果の高い実習課題の検討については、継続して取り組む。 ② ・ プログラミング教育に関する情報収集は、継続して取りくむ。 ・ カリキュラムを含めた授業計画案の検討も、継続して取りくむ。 ③ ・ 「情報科」大学入試導入に関する情報収集は、継続して取り組む。 ・ 「情報科」大学入試導入に関する研修会への積極的参加は、今後も検討する。			

令和２年度各部署の中間評価

報告書

部署名	宗教科	責任者名	
(校務分掌—学校評価—令和２年度—02 中間評価—02 中間部署名) 10月31日(土)までに上記フォルダーに入れておいてください。 取り組み内容に対しての中間評価（項目別でも、全般的でも可） ①日常の挨拶について、多くの生徒は挨拶を積極的にしています。法然上人像への礼なども早朝指導の先生方の協力により、実践できています。 ②授業開始の「一枚起請文」奉読はコロナウィルス対応のため、やや静かに唱えています。授業においてはパワーポイントを利用して授業展開、内容を検討しています。 ③コロナウィルスの影響で体育館においての御忌式、校祖誕生会、物故者追悼会すべて中止となりました。現在はZOOMでの御忌式が中心で、リモートによる合掌、「一枚起請文」奉読は生徒の意識を統一する工夫を考えたいです。			
現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可） ①、②の項目とも本年度はコロナウィルスの影響で今までにない対応を求められています。授業での立腰、合掌、礼、など威儀作法についてもガイドラインに従った実践を生徒に指導していきます。式典としての御忌式、校祖誕生会、物故者追悼会は記録写真、撮影動画などを見せることで、理解をさせていきたいです。			

令和2年度各部署の中間評価

報告書

部署名	1 学年	責任者名	
-----	------	------	--

取り組み内容に対しての中間評価（項目別でも、全般的でも可）

(1) 校訓「正思明行」・学順の実践

- ・各クラス掃除の徹底を心がけ、整理整頓を意識した指導を行った。

(2) 生徒・保護者・教員の意思疎通

- ・第2回保護者説明会は Zoom と出席者を合わせて 90%以上の出席率であった。

(3) 特に英語・国語・数学を意識した学力向上のための方策と学習習慣の確立

- ・特進Ⅰ類、Ⅱ類コースは概ね達成できているが、総合進学コースでは、クラブ活動との両立が難しい。

(4) 担任団・学年担当者・各分掌との連携・意思疎通

- ・なかなか意思疎通が難しい状態である。

(5) 個々の将来の目標設定・目標を意識した進路指導の実践

- ・二者面談を実施し、文理選択の重要性を理解させた。

(6) 社会の一員であることの意識の定着

- ・探究の授業に於いて SDGs を調べ、発表を行った。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可）

(1) 校訓「正思明行」・学順の実践

- ・引き続き各クラスの掃除の徹底を行う。

(2) 生徒・保護者・教員の意思疎通

- ・高1の保護者説明会は出席しなくても大丈夫という状況を作りたくない。

(3) 特に英語・国語・数学を意識した学力向上のための方策と学習習慣の確立

- ・英検対策講習を実施し、英語力強化をはかる。

(4) 担任団・学年担当者・各分掌との連携・意思疎通

- ・毎週担任会を開き、各クラスの現状を全担任が把握するようにする。

(5) 個々の将来の目標設定・目標を意識した進路指導の実践

- ・文理選択の結果における教科を特化させる。

(6) 社会の一員であることの意識の定着

- ・ルールを守ること社会の一員であることを理解させる。

令和2年度各部署の中間評価

報告書

部署名	2 学年	責任者名	
-----	------	------	--

(校務分掌—学校評価—令和元年度—01 中間評価—01 中間部署名)

10 月 31 日(木)までに上記フォルダーに入れておいてください。

取り組み内容に対しての中間評価(項目別でも、全般的でも可)

①・校則遵守の徹底

(立腰、挨拶、服装、頭髪、言葉遣いなど)

⇒ 概ねできている。

- ・行事等では積極的に参加するよう促し、生徒一人ひとりに責任を持たせる。

⇒ 概ねできている。

- ・探究学習を利用して、プレゼンテーション能力を身につけさせる。

⇒ より深く探究活動を行うことができ、生徒たちも積極的に取り組んでいた。

② 学期に1回は必ず生徒との二者面談を実施し、日々生徒の様子を把握して、保護者と常に連絡を密にする。

⇒ 二者懇談は各クラス丁寧に行った。また、コロナウイルス影響を受け、ICTを積極的に活用することで、今までより保護者とも連絡が多く取れるようになっていた。

③・立腰を行うことで心を落ち着かせる。⇒ 概ねできている。

- ・授業と補講習を充実させ、特進コースは国公立大学、総合進学コースは関関同立を一般入試で合格するだけの実力をつけさせる。

⇒ コロナウイルスの影響もあり、多く、補習・講習を行うことはできていない。

④・担任団のみならず、学年担当者、教科担当者との連絡を密にして、情報を共有し、全職員が同じ方向性で指導にあたり、全員で生徒の夢・希望を応援する。

⇒ 概ねできている

令和2年度各部署の中間評価

報告書

部署名	3 学年	責任者名	
令和2年度の重点目標 ①生徒・保護者・教員の意思疎通 ②自立心を養う ③学力の向上 ④希望進路実現に向けてのサポート ①4月から6月のコロナに関する家庭学習期間では、電話・ZOOM・郵便などを利用して生徒・保護者との連絡を密にし、生徒とはZOOMで二者面談も実施した。 ②6月に学校がはじまってすぐに二者面談を行った。個々の目標を明確にさせて、具体的にやるべきことを決め、行動させることで自主的に勉強する生徒が多くなった。 ③1学期の定期考査の1回で仮5段階がつくので、まずは定期考査に集中して勉強に取り組ませた。特に入試で使わない教科も手を抜くことのないように指導した。 ④8月初旬から三者懇談を実施して、どの入試制度を使って受験するのかを決定し、具体的な対策方法を考え実行に移させた。必要な生徒に対しては、小論文指導・面接練習を実施した。			
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 高3学年であるので、限られた時間を有効に使って、個々の進路目標達成のサポートをすること。			
現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容 ☆総合進学コース 指定校・高大連携入試、総合選抜型推薦入試が落ち着きだした時期である。特に今年度は、年内入試が激戦となることを踏まえて、これから受験をする生徒に対して、学校選抜型推薦入試に向けて実力をつけさせ合格に導く。 ☆特進コース 総合進学コースで大学合格者が出る中、焦って私学に流れるのではなく、大学入学共通テストに向け最後まで現役・国公立大学合格の目標を持たせ努力させる。			

令和2年度各部署の中間評価

報告書

部署名	人権教育	責任者名	
(校務分掌—学校評価—令和2年度—02 中間評価—02 中間部署名) 10月31日(土)までに上記フォルダーに入れておいてください。 取り組み内容に対しての中間評価（項目別でも、全般的でも可） 本年度はコロナウィルスの影響で1学期の人権教育LHRは実施できませんでした。2学期、9月25日（金）人権LHRにおいて初めて「コロナウィルスによる人権問題」を実践しました。高1、高2、高3それぞれに一か所、学年の応じた質問を設けました。生徒は自分なりにコロナに対する偏見、差別を理解して意見を記入してくれました。 10月30日（金）に2回目の人権LHRを予定しております。「コロナウィルスによる人権問題と、インターネット被害」についてアンケートを実施します。			
現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可） 人権LHRの実施時期が各学年の行事、クラス運営に重なり調整が必要です。以前のように3階の多目的教室に2クラスを入れての指導はできなくなりました。コロナウィルスに対してのガイドラインに従い、生徒たちの安全を第一に考え現在のHR教室による担任指導のスタイルを実践することになりました。これからも創意工夫をして人権LHRの実施をしていきます。			

令和2年度各部署の中間評価

報告書

部署名	保健管理	責任者名	
1、保健室の機能を充実し、保健管理の組織的推進を図る 新型コロナウイルス感染症の感染予防に細心の注意を払い計画を立て、定期の健康診断は教職員一同の協力を得て、実施項目を学年別・段階的に実施して、特に問題なく終えた。 また、学校医や学校薬剤師等と相談し、心身の健康観察や学校環境衛生、消毒・除菌清掃活動の方法、感染者や濃厚接触者の対応などについて、組織的連携を図り、保健室の機能を活かして、感染者がでることなく感染予防に努めた。 救急対応として学校医の紹介で総合病院の城山病院と連携を図ることが実現できました。 2、自立的な健康の保持・増進をめざした保健教育の実践 心身の発育・発達、特性に応じた健康課題に向けた個別の保健指導を行った。また、集团的保健教育では、保健委員会を中心に、新型コロナウイルスの感染症対策を協議し、新型コロナウイルスをモチーフしたキャラクターや川柳を募集して、身近に迫りくる感染について予防啓発に努めている。また、ホームページ（Health care Room・Health care News 臨時号の発行）においても健康教育を充実していくことができた。 3、健康相談活動の充実と各分掌と連携、情報の共有化 男女の発達特性を鑑み、相談しやすい環境作りに努めた。養護教諭の専門性を活かし、一人ひとりの心に寄り添うことに留意した。相談には担任、保護者、学年主任等と組織的な連携、特に教育相談（SC）とは強く連携を深めている。特に今年度は学校再開後の心のケアには全学年アンケートを実施して、SNSによるいじめや不登校、教室に入りづらい生徒にも重点的に対応をしている。 4、学校保健組織活動の円滑な推進 新型コロナウイルス感染症の予防対策について学校医や保健所、学校内との連携を図り、その指導のもとに実践している。生徒保健委員活動では除菌・清掃活動を生徒の主体的な教育活動の一環として行うことができた。引き続き、学校保健の組織的な連携を図る。			
現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可） 1、保健室の機能を充実し、保健管理の組織的推進を図る 今後も学校感染症の流行の兆しをいち早く入手するために、欠席状況や健康観察に重点をおく必要がある。担任や教務と連携し、学校医、保健所等の指導のもと発生時の迅速な対応、予防啓発活動を積極的に取り組む。除菌・清掃活動では緩急をつけて実施していきたい。 体育や部活動における、けがの発生が例年よりも増加傾向にある。けがの予防について可視化による情報発信を進める予定である。 2、自立的な健康の保持・増進をめざした保健教育の実践 将来に向けての健康増進が図れるように自律的な実践を目指しての生命の教育、感染症予防に関する保健指導を推進したい。今後もホームページ等、ICTの活用を推進していきたい。 3、健康相談活動の充実と各分掌と連携、情報の共有化 心身に問題を抱える生徒を、保健室だけで抱えることが多い。担任、学年団、部活動の顧問、SCや保護者とも必要に応じて情報共有を図り、役割分担とチームとして組織的連携を深めていくことが急務である。生徒への声がけを多くし、生徒の言動とあわせて心の問題やその背景に注意を払って、深刻な問題にならないように心がける。 4、学校保健組織活動の円滑な推進 生徒が主体的に活動できる保健委員会活動の企画（講演会や発表）、ホームページの作成や保健ニュース作成など、生徒会や各委員会、分掌の協力を得て引き続き推進していきたい。しかし、その委員会活動において時間を捻出することが難しい。また今後、反省・評価に繋げていくことも課題である。			

令和2年度 中間評価

報告書

部署名	図書教育	責任者名	
①図書室の運営管理の充実 ・開館時間の安定:極力開館するよう心掛けているが、行事や会議などは閉館することがあり、働き方改革の影響で閉館時間は短くなっている。 ・館内内の整備:NDC 順に配列、新刊の配架、特集コーナーの設置、返却ボックスの設置など。 ②図書の充実 ・購入図書の選定および購入:学期ごとに選定し、予算を考慮しながら進めた。 ・希望図書への配慮:まだ検討すべきこともあるので進められていない。 ・蔵書の整理:高校の蔵書分を随時行っている。中学の書庫が手付かずなので、時間をつくって進めていく予定。 ③読書活動の推進 ・読書の啓発:読書週間の告知がほとんどできなかったので、図書館だよりを通じて発していきたい ・図書館だよりの定期的な発行:毎月発行できている ④利用生徒数の向上 ・図書室利用の推進:他教科やクラスで利用してもらうことで、興味関心を高めてもらうようにする。 ・委員会の活動の推進:整理整頓では大いに活躍できた。今後は自主的な活動を促していきたい。			
現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可） 新しい蔵書管理システムを導入し、随時登録作業をすすめていけている。非常勤講師の先生に手伝っていただいているので、ペースも早く、今年度中には登録だけなら蔵書すべての登録ができるかもしれない。それに伴った装備処理を図書委員の仕事とリンクして進めていけるよう考えている。 古い蔵書を新しく入れ替える場合と、除籍処理をして廃棄するものを選別する作業が必要であるが、膨大な量があるので段階ごとに設定して蔵書の刷新を図りたい。ただ、個人的な見解にならないよう随時会議などで確認をし、進めていきたい。 また、現段階で、おおむね改善すべき項目やすべき仕事内容が把握できてきたので、これからは活気ある運営を目指し、さらに仕事を精査・整理し、整備していかなければならない。項目を仕分けし、活用できる図書室をつくっていききたい。			

令和2年度各部署の中間評価

報告書

部署名	広 報	責任者名	
取り組み内容に対しての中間評価（項目別でも、全般的でも可） （１）本校ホームページの更なる改良 ⇒見たい情報にすぐにたどり着けるホームページを目指して、動画の整理やトップページの改良を行っている。 （２）ブログの更新回数増加とアップ内容の精査 ⇒行事に関しては、内容の詳細が分かる文章と写真をアップして内容の充実を図っている。ただ更新回数については目標に達していない。 （３）近隣地域に向けた広報活動の充実 ⇒新規のものとして、スクールバス側面に広告を掲載した。またリニューアルした懸垂幕を掲示した。 （４）SNS活用の検討。 ⇒他校の状況を調査中である。 （５）広報委託業者の見直し。 ⇒次年度から広報業務を委託する新規業者に向けて選定のためにコンペティションを準備している。			
現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可） 学校案内、ホームページ管理において、現状の依頼業者と連携の点において多くの課題を抱えている。次年度から新規依頼をする業者との間においては、上宮太子が目指す広報物のあり方をしっかりと伝え、共に完成度の高い仕事をしていきたい。			

令和2年度各部署の中間評価

報告書

部署名	業務推進	責任者名	
取り組み内容に対しての中間評価（項目別でも、全般的でも可） ① 共有文書等のデータによる活用 ・「各種書類の印刷量の削減およびデータの活用」は、一部で実施できている。 ② 個人情報の管理の徹底 ・「定期的な個人情報の安全管理に対する教員への注意喚起」および「個人データの管理の徹底」については、現時点では十分とは言えない。 ③ 環境の充実 ・ ファイルサーバ内のフォルダの整理は、一部で実施している。 ・ 個人PCへのセキュリティソフトの導入の徹底は、実施できている。 ④ 業務軽減への方策 ・ 「分掌内での情報の共有化の徹底」および「効率的な業務の分担の実現」は一部できている。 ・ 「作業マニュアルの改訂」は実施できていない。 ⑤ クラウドサービスの活用 ・ クラウドサーバの利用は、進んでいない。			
現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可） ① 「各種書類の印刷量の削減およびデータの活用」は、今後も取り組む。 ② 「個人情報の管理の徹底」は。継続して取り組む。 ③ 「ファイルサーバ内のフォルダの整理」は、今後も取り組む。 ④ 「作業マニュアルの改訂」は、今後も検討する。 ⑤ 「クラウドサービスの活用」は、今後も検討する。			

令和2年度各部署の中間評価

報告書

部署名	学校評価	責任者名	
(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ①学校評価に関する企画・立案・実施 令和2年度の予定は、コロナ禍の影響はあったものの、予定通り進んでいる。 ②学校評価の報告書の作成・提出 今年度も予定通り作成し提出を終えている。 ③授業アンケートに関する企画・立案・実施 予定通りの日程で実施する準備は終えている。 ④学校関係者評価委員会の企画・立案・実施 コロナ禍の影響で学校関係者評価の実施方法は例年と同じ形態でできなかったが、方法を変えて実施済である。			
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 各アンケートの活用方法についての検討 現在のところ新しい活用方法についてはまだ検討できていない。			
現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容 今のところ特に問題は出ていない。 今後オンラインによるアンケートの可能性を考えたい。			

令和2年度各部署の中間評価

報告書

部署名	事務室	責任者名	
取り組み内容に対しての中間評価（項目別でも、全般的でも可）			
① 適切かつ効率的な事務処理と質の維持 上宮本部からの移動職員、新任職員の配属もあったが、コミュニケーションをとりながら確実に業務の引継ぎを行うことができている。また、本部と連絡を密にとり、業務が効率よく行われている。 ② 企画・運営に関する事務（特色のある学校づくり） コロナウイルス感染症により、情報発信が難しくなる中、WEB説明会システムのサポート、中学校・塾への学校案内の送付（4月・7月・9月）、スクールバスへの合格実績等のラッピングを行った。 ③ 校内の・教育環境のさらなる整備 新型コロナウイルス感染症においてWEB授業などの遠隔教育システムの準備が急務の中、教職員との連携により整備することができ、全生徒が自粛期間中のZOOMによるWEB授業に参加することができた。			
現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可）			
① 適切かつ効率的な事務処理と質の維持 既存の業務・作業の内容と工程を見直し、更なる業務の効率化を図っていく。 ② 企画・運営に関する事務（特色のある学校づくり） コロナウイルス感染症で早い段階から会場を学校とした学校説明会等を行うことができなかった為、実際に学校を受験生に見てもらえる機会が少なくなった。後半の貴重な学説明会等をより成功させるために事務室としてサポートしていきたい。 ③ 校内の・教育環境のさらなる整備 タブレット等を活用したICT教育など子どもたちがさらに良い環境で充実した学校生活をおくることができるようにネットワーク等より整備していく。他にも、補修等必要な箇所については、計画を立てて修繕していきたい。			

令和 2 年度

学校評価に関する
各部署の総括

上宮太子高等学校
学校評価委員会

部署名	教務部	担当者	
-----	-----	-----	--

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和2年度の重点目標 ※4月末までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ・ 大学入試改革への対応の為の調査書の検討・作成。 ・ 労働時間の遵守及び就業システムを円滑に運営するため、事務所・総務との連携。 ・ 教務内規・考査規定の再検討。 ・ 臨時休校期間におけるオンライン授業の確立
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 ・ 教務運営システムの整備・効率化 ・ 国際理解教育の推進 ・ 有効な指導体系の継続検討

2. 令和2年度の取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
(1) 教務運営システムの整備・効率化 ① 行事の着実な実施と改良 ※入念な準備、実施要項作成 ※実施資料(改善点等記録含)の整理・保存・次年度への引継ぎ等 ② 教務各係の業務内容と資料の点検・整備 ③ 教務内規の精査・改定・整備 ※確定規定の明文化と職員周知 ④ 各部署との連携強化による業務効率化	B	B	① 各部署と連携を取り、先生方の協力のもとで行事を円滑に進めることが出来た。実務面で出た課題を次年度、改善したい。
(2) 有効な指導体系の継続検討 ⑤ カリキュラム改良の検討 ⑥ シラバス改良の検討	A	A	② 各業務を明確化し、点検・整理を行った。
	A	B	③ 上宮高校との内規比較により、内規の改定に向けて検証を図った。
(3) 国際理解教育の推進 ⑦ 社会の動きに併せながら対応をしていく	B	A	④ 特に教務面では業務推進部、行事面では生徒会・体育科との連携を図ることが出来た。
	C	B	⑦ 新型コロナウイルスの影響で、海外修学旅行・海外語学研修等は全て中止になったが English Workshop と English Camp のみ開催することができた。
(4) オンライン授業の導入 ⑧ 新型コロナウイルスによる臨時休校期間の対策として組織的なオンライン授業体制の整備	A	A	⑧ ICT教育推進委員による校内研修会やICT環境の整備により、全教職員のスキルアップに繋がった。

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準：

A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった	B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでない	D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

・ 新型コロナウイルス感染拡大により、行事の中止や変更を強いられたが、オンラインや代替行事など新しい形の取り組みを実施する事が出来た。 ・ 次年度に向けては、働き方改革に応じた業務の効率化と就業時間の遵守を事務所・総務と連携していきたい。 ・ 今後、様々な変化が予想される社会状況においても、対応できる柔軟性と準備をしておきたい。 ・ 内規における評価、評定について、今後早急な検討が必要である。

部署名	生徒指導部	担当者	
-----	-------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和2年度の重点目標 ※4月末までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標	
生徒相談	悩みをもつ生徒が、楽しく学校生活が送れるようにする。
1 教職員への啓発・発信	2 スクールカウンセラーと教職員との連携
生徒会	1 生徒会活動の活性化
2 委員会活動の活性化	
3 広報活動	4 生徒会活動の研究
5 ボランティア活動	
生活指導	1 生徒指導の推進と問題行動の予防強化
2 道徳意識、規範意識の向上	
3 いじめ・不登校、配慮を要する生徒への取り組み	4 生徒の愛校心向上
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標	
生徒相談	笑顔であいさつがあふれる学校づくり
生徒会	生徒主導による各種活動
生活指導	事故がなく安心して生活できる学校づくり

2. 令和2年度の取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
生徒相談 1. 研修会への参加、そして報告。 「不登校を考える会」等からの資料プリントの配布。 2. カウンセリング希望者との日程・時間等の予約の調整。 カウンセリングを受けた生徒（保護者）の状況を把握。 スクールカウンセラーによる教職員への研修会開催。	B	B	カウンセリングについてはスムーズに対応できた。またカウンセリングの部屋も同じ棟にあるため動きがよく、この状態のまま次年度につなげていきたい。
生徒会 1. 生徒が主体的に動ける行事の運営・学校づくり（体育大会・上宮祭運営、生徒議会の開催、規範意識の向上等） 2. 委員会活動の活性化 3. 広報活動（上宮太子ニュース・説明会・地域行事参加） 4. クラブ生を主体とした学校の活性化 5. 校外ボランティア活動への参加	B B B C B B	B B B C B A	新型コロナウイルス感染症の影響で予定していた行事等が変更または行うことができなかった。そんな中、特に体育大会・上宮祭は外部のホールを借り、すばかるふえす2020と形を変えて実施できた。また、インターアクトクラブの認証伝達式を規模は縮小したが実施することができ、ボランティア活動の第一歩を踏み出すことができた。
生活指導 1. 教員による一律指導を目指し、実践内容を改訂・明確化 大阪私学連盟で得た情報を校内に生かす取り組みの実施 2. 始業式・終業式・御忌式の際、全校生徒に指導、説諭 生徒心得遵守を促す取り組み実施・生徒自治会との連携 3. 「いじめ防止基本方針」・「行動計画」を改定・明確化 不登校、配慮を要する生徒の把握と適宜の対応を検討 4. 「学校の活気を高揚する取り組み」の実践継続 生徒自治会役員生徒の意見反映	B C B B	B C B B	高1生徒には、いつものような形での生活指導の話ができず、定着させることに時間を要した。特に携帯電話の使用に関する指導が多かった。また、全体が集まって顔を見ながらの話もできず、一方通行的な感じになった。朝の挨拶活動は、生徒会・風紀委員会の協力で生徒がしっかり活動してくれた。

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準：
A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった
B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでない
D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

生徒相談	生徒相談室を新たに設置し、保健室利用の改善・カウンセリングとの連携を強化したい。
生徒会	ボランティア部を中心に、生徒による自主的な活動を活性化させる。
生活指導	制定品の見直し検討を進める。（今年度は鞆が中心）

部署名	進路指導部	担当者	
-----	-------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和2年度の重点目標 ※4月末までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標	
I. 進学実績の目標達成	II. 基礎学力の向上
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標	
III. 主体性を育む教育	IV. 戦略的改革

2. 令和2年度の取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
I. 進学実績の目標達成 (高校3年)			I.
a. 国公立大学14以上合格	B	A	a. 合格数16
b. 関関同立20以上合格	C	C	b. 合格数9
c. 産近甲龍80以上合格	B	A	c. 合格数94
II. 基礎学力の向上 (高校1年・2年)			II.
d. 進研模試偏差値52以上を学年の2割以上	B	B	d. 高1は18%、高2は15%
e. 進研模試偏差値46以上を学年の5割以上	B	B	e. 高1は41%、高2は27%
f. 模試の事前・事後指導、結果分析	B	C	f. 分析および説明が不十分
III. 主体性を育む教育			III.
g. 探究活動の推進 (高校1年・2年)	B	B	g. 発表会を実施、形ができつつある
h. 家庭学習の推進	B	C	h. 担任を通じた指導が必要
IV. 戦略的改革			IV.
i. 生産性の高い進路指導体制構築	C	C	i. 協力体制の構築が不十分
j. ICT教育の推進	B	B	j. 浸透しつつある教科もある
k. アクティブラーニングの研究と啓蒙	B	B	k. 浸透しつつある教科もある

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準：

A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった	B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでない	D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

①高校1年生・2年生に関しては、基礎学力の定着と向上に取り組む。さらに、「思考力」「判断力」「表現力」を育むための探究活動を進め、「主体性」を引き出したい。
②高校3年生に関しては、教科・学年と連携し、さらなる学力および進学実績の向上に取り組む。
③生産性の高い進路指導体制を作る。全人教育を通して進学実績を向上させる。

部署名	入試対策部	担当者	
-----	-------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和2年度の重点目標 ※4月末までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 (1) 入試における受験者数安定・増加のための活動 (2) 効果的な広報物を制作・活用する (3) 情報の収集・共有化 (4) 今後に向けての対応策検討
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 望む受験生の安定的確保

2. 令和2年度の取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
(1) 入試における受験者数安定・増加のための活動 少子化の影響により受験者は減少傾向にある。公立中学校や塾、および受験生において、上宮太子が広く認知され、受験者数を安定・増加させるための活動を強化する。 ①公立中学校や塾などへの訪問回数を増やす。 ②受験生や保護者に直接的にアプローチできるよう地域限定の説明会を行う。 ③ICTツールを活用した広報活動を行う。 (2) 効果的な広報物を制作・活用する 高等学校への興味関心を抱くためにはホームページやパンフレット、リーフレットなどが入り口となる場合が多い。広報係との連携のうえ、効果的な広報物を制作し、募集活動に活用する。 (3) 情報の収集・共有化 受験情勢や社会の動向、各校の動きなど入試の現場は刻一刻と変化している。その変化に学校全体での対応が円滑にできるために、情報収集と情報の共有化を図り、教職員一丸となって広報活動が行えるようにする。また、上宮高校や上宮学園中学校との情報共有を進展させ、3校で連携をとり、学園全体で広報活動を行う。 (4) 今後に向けての対応策検討 少子化、就学支援金支給の動向、公立校の入試制度改革など、私立校を取り囲む状況は今後一層厳しいものになる。入試広報の側面から、将来を見据えた対応策を検討する。	B C A A B B	B C A A B B	・高校入試における受験生は昨年より増加したが専願者数は減少した。コロナ禍や地域の人口減少の状況に鑑みると受験生の増加はよかった。しかしながら、大阪府下での専願率はほぼ横ばいであるので、今後専願者を増加できるような活動が求められる。 ・コロナ禍の状況の中、説明会や校内イベントへの参加を控える受験生や保護者がいると考えられたため、オンラインによる個別相談会やオンライン説明会などを企画した。一定数の参加者があり、いい結果だったと思われる。また、同時に学校紹介 VTRを多数制作し、ホームページに載せた。来校できない受験生や保護者達を含め、学校をアピールできるコンテンツが充実したのはよかった。 ・学校全体への情報共有については発信する方法やコンテンツの充実を図る必要がある。

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準：

A 予定通り進んだ	/	顕著に成果があった	B ほぼ予定通り進んだ	/	成果があった
C あまり進んでいない	/	あまり成果がでていない	D 進んでいない	/	できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

・次年度においては、大阪府下で中3の人口増加が見込まれるので、今年度に比べると受験生は増加するかもしれない。しかしながら、併願者の大多数が奈良県居住者であり、奈良の公立高校の倍率が低迷する中、併願の戻りは見込めない。今後、専願者をいかに増やすかに焦点をあてた取り組みが必要である。そのために、広報ツールの充実、受験生や保護者に直接的にアプローチするイベントの検討など渉外活動だけでなく広報活動の充実が急務である。入試対策部と広報係、教務部が連携し効果的に生徒募集に努める必要がある。 ・社会情勢や上宮太子を取り巻く環境について全教職員が共通認識を持って取り組む必要がある。そのためにも学内に積極的に発信していき、情報共有を図っていなければならない。
--

担当者

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和2年度の重点目標 ※4月末までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標

1. 受験対応力向上へ向けたアプローチ（大学入試問題の研究を含む）
2. 教員の研修活動への参加、フィードバック、記述講座（教員のスキルアップ）

(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標

1. 授業改革による生徒の読解力・表現力の向上
2. 各学年の学習指導計画にアクティブラーニングを導入する研究（特に高1/高2学年の教育方法の改革）
あわせて、日ノノートを軸としたiPadを授業で活かす方法の研究

2. 令和2年度の取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
1、授業改革による生徒の読解力・表現力の向上			コロナ対応に追われた一学期であったこともあり、教科としての新しい取り組みは進まなかった。読解力向上が目下、喫緊の課題であるので、来年度は重点的に取り組みたい。
① 生徒の学習定着をはかるための方策研究	B	B	
② 読解トレーニングと読解力向上への取り組み	B	B	
③ 職員同士での国語力向上についての意見交換	B	B	
2、各学年での学習指導内容の研究			
① 模擬試験・大学入試問題等を使用して生徒の到達度を確認	B	B	今年も各コース、各学年に任せている部分が大きく、それぞれの共有をもう少し進めるべきであった。
② 特進コース →共通テスト、国公立の大学入試に即応できる実力養成	B	B	特に今年度始まった共通テストについては、来年度早々から勉強会を実施して、しっかり来年度以降に向けた取り組みの基礎を作っておくべきである。
③ 総合進学コース →推薦入試への対応 小論文対策 →公募制推薦・一般入試に向けた対策 学習指導内容の改善	B	B	iPadの活用は、他教科に先んじてかなり進めることができた。来年度以降もこの流れを上手く授業改革に活かしていきたい。
④ 高1/高2学年の新入試制度に向けた授業改革 →Find!7キティナーの本格的な活用、研究、授業への導入 →ロイロノートを軸とした、Ipad 活用法を研究した授業展開	A	A	
3、受験対応力向上へ向けたアプローチ			
① 各学年における講習の充実	B	B	各学年、それぞれ工夫を凝らした形で授業を展開し、講習や授業中の小テストを実施している。小テストに関しては教科としてかなり定着してきたが、さらに成績伸長につながる方策を模索すべきである。
② 教材や指導法における受験対応力強化の工夫	B	B	
③ 授業中小テストの導入による継続的な基礎力向上への取り組み	B	B	
③ 国公立大学・難関私立大学の出題研究	B	B	
4、教員の研修活動への参加、教科へのフィードバック			
①予備校・大学主催の研修会やその他の学習会への積極的な参加 →入試の現状把握、教員のスキルアップ	B	B	教員の研修会への参加は、ほぼ ZOOM という事になったが、変わらず積極的な参加があった。しかし、今年はフィードバックをする機会が少なく、個々人でのブラッシュアップにとどまっていた。他の業務に追われ、教科内勉強会も実施することができなかった。
② 教科への研修活動のフィードバック →教科会での参加活動報告、または勉強会開催	C	C	
③「論理エンジン講座」「記述講座」「新入試制度研究」をはじめ、教科内の教員による勉強会実施	C	C	

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準： A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

今年は、共通テスト1年目ということもあり、高3担当を中心に対応に追われたが、本番の試験を確認して、来年度の取り組みの中心部分も見えてきた。早速、教科内での勉強会などを通して、教員のスキルアップにつなげていきたい。対して、私立大学の問題はあまり変更がなく、本校としての取り組みも大幅な変更は必要なさそうである。ただ、国語の成績や、生徒の国語への意識が高いとは言えない。iPadを活用したICT教育を上手く導入しながら、来年度以降は、生徒がいかに国語に積極的に取り組みたいと考えるか、自分で考える力をつけることができるか、そこをポイントに授業の構成を考えていきたいと思う。

部署名	社会科	担当者	
-----	-----	-----	--

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和2年度の重点目標 ※4月末までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 (1) 授業の厳正化と社会科としての強化 (2) 教科会の活性化 (3) 入試問題の研究 (本校入試問題及び大学入試問題)
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 新カリキュラムへの対応と共に ICT の活用の在り方の研究

2. 令和2年度の取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
(1)①「立腰」から始まる授業に集中できる雰囲気づくりをする。 ②社会科の授業が好きになる工夫をする。 ③高校において、特進コースは平均偏差値 60 以上、総合進学コースは平均偏差値 50 以上をめざす ④授業アンケートを意識した授業を実施し、総合評価で 80%を上回る。 ⑤社会科に関する研修会などへの積極的な参加。 ⑥高校3年生における社会科を入試で捨てさせない意識付け。 (2)①教科会の可能な限りの実施と科目間の連携。 ②授業見学会実施 ③思考力・判断力・表現力を意識した、新課程研究を始める。 (3)①大学入試制度改革に向けた上宮太子高校の入試問題にふさわしい内容にするための研究。 ②大学入試センター試験、難関私立大学等の入試問題を研究し、高得点につながる科目担当者による研究。	A	B	授業はオンラインの実施も含み、柔軟な対応と共に臨機応変に行うことができた。授業の質の高さにはまだ改善の余地がある。
	A	B	教科会にて、連絡のみならず、研修の場としても行うことができた。新課程への研究がまだ足りていないところもある。
	A	B	共通テストに向けても、特進担当者中心に研究を行っていただけた。ただし、来年度へ向けて、まだまだやるべきことも多い。

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

新カリキュラムへ向けての研鑽が必要となる。 ICT の活用の在り方に関して、研究並びに研鑽の場が必要である。 例として ICT を活用した授業の行い方の研究会などの実施 再びオンライン授業など、平常授業の行えなくなった時の柔軟な対応が取れるような準備。

部署名	数学科	担当者	
-----	-----	-----	--

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和2年度の重点目標 ※4月末までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 1. 授業の厳正化 2. 数学力の向上 3. 教科会の活性化 4. 研修への積極的な参加
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 1. 特進Ⅰ類、特進Ⅱ類、総合進学コース、各コースにおける指導方針の統一 2. 理系進学希望者の増加 3. 理系大学進学率の向上

2. 令和2年度の取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
1. 授業の厳正化 ①個々のより深い教材研究と教材の共有 ②研究授業の実施 ③各コースの特性を見据えた指導計画と実践 2. 数学力の向上 ①家庭学習定着のための内容・量の適正化と推進 ②各学年の偏差値2ポイントアップを目指した模擬試験対策およびやり直しの徹底 ③能力に応じた補習、講習の実施 ④大学入試問題の研究・研修と生徒への還元 ⑤特進コースの国公立大合格率向上 (最後まで目標を持って諦めさせない) ⑥総合進学コースの一般入試合格率向上 (指定校・A0入試に頼らず、一般入試まで頑張らせる) 3. 教科会の活性化 ①連絡の徹底と教科内の共通認識 ②教科における情報交換と研修 4. 研修への参加 ①アクティブラーニングやICTについての研修を受け、学んだことを教科会で検討し、導入していく。	A B B B B B B B B A B C	B C B B C B B B B A B C	コロナウイルスの影響を受け、緊急事態宣言が発出されるなかで、オンライン授業の実施を目標とし、各教員積極的に研修に参加した。研究授業の実施は密にならない程度に行うしかできなかった。 ICTを積極的に活用する中で「ロイロノート」を利用して、家庭学習に取り組まさせることはできている。 教科会に関しては、例年よりも多く行い、教員間で情報交換をしながら、連絡を取り合って進めることはできた。 現状、積極的に研修に参加するのは厳しかった。

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準：

A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった	B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでない	D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

令和2年度はコロナウイルスによる緊急事態宣言の発出に伴い、教育環境が大きく変化した。その中で、生徒の学びを止めないために。オンライン授業を積極的に活用し、その中でICTに対して理解を深め、生徒に還元することが多くあった。今後、「ロイロノート」などを積極的に活用し、さらに質の高いものを生徒に還元できるよう進めていく。

部署名	理 科	担当者	
-----	-----	-----	--

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和2年度の重点目標 ※4月末までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 昨年度までの目標から継続し、以下の2つを重点目標とする。 ① 指導力を向上し、授業内容を充実する。 ② 大学入試に対応できる学力をつけさせる。
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 観点別評価における評価の方法の検討

2. 令和2年度の取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
① 指導力を向上し、授業内容を充実する a 実験や観察を多く取り入れ、理科に対する興味・関心を高め、科学的自然観を養う。また、指導方法を教科内で共有する。 b 大学受験に向けた各学年における実力養成のための方法や課題の研究および実践 c 授業見学やFINDアクティブラーナーを使った授業研究を実施し、これをもとに教科会で意見交流を行う。 d 進研模試や関西国公立、関関同立などの入試問題研究を行う。 e ICTを用いた授業について研究し、新課程研究を進める。 f 観点別学習状況の評価基準を検討する。 ② 大学入試に対応できる学力をつけさせる g 生徒の実情に合わせた補講習・単元テストを適宜実施し、学力向上につなげる。 h 「やり直しノート」を作成・提出させ、復習の重要性を意識させる指導を徹底する。また、課題の与え方について検討する。	B B D B B C A B	B B C A B C A A	・物理、化学ではよく取り組んでいる。生物では内容的に多くは取り入れられなかった。 ・各科目で課題研究や実践はよく行われた。生徒への反映の面で課題が残る。 ・授業見学は実施できなかった。FALは科目担当各位で個々に研究に取り入れた。 ・研究のみならず、生徒の要望に応じて適宜実践対応できた。 ・機器の使用率は高い。特性を生かした指導法も実践されている。 ・主体的学習態度についての評価基準について検討している。 ・各科目でよく実践できた。 ・各科目でよく実践できた。

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準：

A 予定通り進んだ	/	顕著に成果があった	B ほぼ予定通り進んだ	/	成果があった
C あまり進んでいない	/	あまり成果がでていない	D 進んでいない	/	できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

・次年度から iPad が導入されるため、危機を適切に活用した授業や課題において教材づくりの検討。 ・より多くの生徒が興味を持ち、深く理解できる教材づくりや指導方法の研究。
--

部署名	英語科	担当者	
-----	-----	-----	--

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和2年度の重点目標 ※4月末までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標

**オンライン英会話やロイロノートを活用して音声指導を行い、英語に興味を抱かせる。
また、予習・復習の習慣をつけさせて、模試成績を2ポイント UP させる。**

(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標

4 技能を意識した授業を目指す。

2. 令和2年度の取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①英語力の向上 - 予習や宿題を毎日課し、ノートチェックを <u>ロイロノート</u> を利用して <u>毎日点検する。</u> - セクション終了毎に小テストで復習の定着。(特進は毎時間小テスト実施) <u>1, 2 年生はオンライン英会話を利用して</u> Speaking, Listening の力をつける。 - 辞書を毎回持参させ、4～5回は活用する。 - 英検に向けてオンライン英会話を活用する。 <u>速読教材を使って共通テスト対策をする。</u>	A	A	- ロイロノートで予習をチェックするようになり、自宅で朝などに済ますことができ、授業にゆとりが少しできました。 - 小テストもデジタル化をしていきたい。
	A	B	
	A	B	ほとんどの生徒が熱心に取り組み、楽しみにしてくれ speaking に慣れたと思います。
	B	B	読解の授業と比べ表現の授業では活用がやや少ないように思います。
	A	A	1 対 1 の英会話のお蔭で英検二次対策になっていると思います。
	A	A	予定の教材だけでは足りず他も利用したため、思った以上に特進では効果が出ました。
②指導法の研究 - 教員間の授業を積極的に見学し、改善に努める。 - 授業改善に関わる書籍購入の推進 - 郊外の研修会に積極的に参加。	B	C	自分たちの授業でなかなか機会が少なかったが少しは出来ました。
	B	B	4 技能に必要なものは少し購入しました。
	D	D	コロナでほぼ参加できていません。

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

オンライン英会話への生徒の熱心な取り組みと感想を聞いているとやはり「使える英語」を身に付けたいと思われまので、来年度1年生から4技能を意識したオールイングリッシュの授業の確立を目指したいと思います。また、共通テストに向けて速読を中心とした授業内容に変えていきたいと思います。

部署名	保健体育科	担当者	
-----	-------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和2年度の重点目標 ※4月末までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ・集団行動を通じて、社会生活に適応できる姿勢・礼儀などを習得する。 ・各種スポーツを通じて、技能向上と体力作り・協調性を習得する。 ・デジタル教科書を活用した、授業も研究し、実践できるようにしていく。
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 ・新興感染症への対応 (コロナウイルスに対する知識、予防方法、罹患時の対応など)

2. 令和2年度の取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
時間を守る 授業開始時間に遅れない	B	B	おおむね改善されている。新年度、新入生が最近はできないので継続していく。
集団行動の様式の習得と実践(静と動) 挨拶・姿勢・集解散・方向変換・ラジオ体操	B	B	1学期の休校など、少し徹底できなかった。新年度は再度徹底していく。
服装を正す 忘れ物を無くす・腰パン・半袖シャツを出さない・体操帽着用	B	A	忘れ物する生徒服装、乱れている生徒はほぼ決まっている。それらの生徒を改善しました。
各種目の技術習得 個人技能と集団技能	B	B	運動能力の低い生徒が増加、継続して習得に務める
運動することの必要性、大切さ 生活習慣と生涯健康の関わりを理解する	A	A	保健の授業、体育の中で理解させることができた。
各種目のルールの理解 ゲームの運営・ルール習得	A	A	ルールの小テストを実施するなど。種目ごとのルールはほぼ理解できた。
I C T の導入 デジタル教科書を活用した、授業も研究し、実践	B	B	実際にリモート授業も実施した。常に研究実践を継続していく。
心肺蘇生法の習得 胸骨圧迫・AED使用方法	B	B	生徒たちの自覚に委ねられるところは大きい。心臓の部分、生命の尊厳から学ばせた。

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準：

A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった	B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでない	D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

I C T、リモート授業の充実、研究改善に常に努めていきたい。
--

部署名	芸術科	担当者	
-----	-----	-----	--

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和2年度の重点目標 ※4月末までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標

1. 行事への協力、取り組み。

(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標

2. 表現力を伸ばし、感性を磨き、豊かな心を養う。
3. 評価、評定の方法について協議する。

2. 令和2年度の取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
1. 行事への協力、取り組み。 ①聖徳書道展への協力。 ②芸能鑑賞等、教務部との連携。	A	A	・①においては、入選の賞状を早く書きあげ、賞品と共に発送したので時間短縮出来た。②はコロナ禍で実施できず。
2. 表現力を伸ばし、感性を磨き、豊かな心を養う。 ① 表現力を伸ばすための基礎技術の指導、および基本的な知識をつける。 ・音楽 演奏（器楽、声楽）の基本技術の指導。 音楽史の学習。 ・美術 絵画表現（描写、着色）と立体表現の指導。 美術史の学習。 ・書道 楷書、行書における用筆法の指導。 書道史の学習。	A	B	・音. 美. 書とも、今年度はコロナ禍でもあり、第一志望の選択者で実施。 各科目に多少の人数に差はあるものの、少人数での授業となったため、一人ひとりの生徒への指導が行き届いたと感じられる。
3. 評価、評定の方法について協議する。 ① 平常点の割合の研究、分析等を行う。	B	C	・継続して協議しなければならないが、特に平常点の割合が課題である。

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

- ・芸術（Iのみ）で何を学ばせるのか再度考えたい。
- ・評価についてどうあるべきか、そして平常点の割合等を継続して考えたい。
- ・3年生総合コースで（3年後）「情報」と「書道」から（2単位）選択での実施がほぼ決定しているが、いずれ美術・音楽については、いかがなものかを考えたい。

部署名	家庭科	担当者	
-----	-----	-----	--

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和2年度の重点目標 ※4月末までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ① 技術・家庭科に対する学習意欲の向上 ② 実践的・体験的な活動、生活を改善する意欲と実践的な態度を育成 ③ 男女共同参画社会を意識した教育推進 ④ 教材の整備 ⑤ 実践的授業の実施計画
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 ・興味関心を高める教材の選定・授業の工夫（プレゼンテーションによる評価方法の確立など）

2. 令和2年度の取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①家庭科に対する学習意欲の向上 - 授業プリントの内容を深め、関連した資料や情報を添付する。 (本物志向の展開：本物を見て触らせる) - 未提出者等は催促し、必ず提出させる。 - 他教科との連携を図った授業を展開する。	B	A	他教科との連携が図れなかったが、生活に関する意識が上がったので、授業中の発言や質問が変わってきていた。
②実践的・体験的な活動、生活を改善する意欲と実践的な態度を育成 - ものづくりの体験的活動を通して、家族の人間関係や家庭の機能を理解させる。 - 生活に必要な基礎的・基本的な知識・技術を身につけさせ、生活を工夫し創造する能力を育成する。	C	B	コロナ禍の影響もあり、実習を避けるべきかぎりぎりまで悩んだが、内容を簡略化させて、完成度や達成度で評価ができたので、生徒も丁寧な取り組みをしていた。
③男女共同参画社会を意識した教育推進 男女共に協力し、助け合えるよう自立を促す。	A	A	生徒間での男女の格差は無くなってきている。
④教材の整備 - 環境に配慮して主体的に生活を営む能力を育てるため、自ら課題を見だし展開できる問題解決的な教材を検討する。 - 情報化に対応し、生活と家庭科との関わり、情報手段の活用内容の充実を図る。	B	B	例年プロジェクターでの授業を進めているが、今年度より通年で2単位になったのでさらに効果的な教材研究が必要であり、実践的なことを多く取り入れていきたい。また、課題の設定もモチベーションの上がるものを検討していきたい。
⑤実践的授業の実施計画 - ものづくりは行程が重要であるため、構造、材料・製作、仕上げを、計画的に実施する。 - 全ての実習に於いて、「安全面」「備品管理」を徹底する。	C	C	授業時間をうまく活用して、取り組みたい。工夫した実習を検討中である。

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

・実践的なものとして、情報教育を取り組んでいきたい。また、各分野の課題を精査し、より自立ができるように心掛けたい。 ・身近な生活（食事のコントロール、将来に向けた一人暮らし、お金のやりくりなど）を紐づけると一気に意識が上がっていたので、継続していきたい。 ・授業時間内で、ICT活用を推進していき、機会を増やしていき発表に慣れさせていきたい。 ・2022年度より18歳での契約が可能になるため、引き続きトラブルに巻き込まれないための注意喚起を行っていく。

部署名	情報科	担当者	
-----	-----	-----	--

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和2年度の重点目標 ※4月末までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ① より良い授業内容にするための検討 ② 新学習指導要領における教材研究 ③ 大学入試制度改革に関する情報収集
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 ④ 大学入試科目への対応

2. 令和2年度の取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
① より良い授業内容にするための検討 ・ 学習効果の高い実習課題の検討 ・ 座学で扱う内容の再構成	C C	C C	・ 検討はしたが、あまり改善しなかった。 ・ 十分とは言えなかった。
② 新学習指導要領における教材研究 ・ プログラミング教育に関する情報収集 ・ カリキュラムを含めた授業計画案の検討	B C	B C	・ 一定の成果はあった。 ・ 思うように進展しなかった。
③ 大学入試制度改革に関する情報収集 ・ 「情報科」大学入試導入に関する情報収集 ・ 「情報科」大学入試導入に関する研修会への積極的参加	B D	B D	・ 一定の成果はあった。 ・ 新型コロナウイルスの影響もあって、参加することができなかった。
④ 大学入試科目への対応 ・ 共通テストに関する情報収集 ・ 共通テストへの対策	C D	C D	・ 十分とは言えなかった。 ・ 全くできなかった。

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準：

A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった	B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない	D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

① 新学習指導要領における教材研究 ② 大学入試制度改革に関する情報収集

部署名	宗教科	担当者	
-----	-----	-----	--

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和2年度の重点目標 ※4月末までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標

- ①校訓、学順の理解
- ②授業内容のさらなる充実
- ③宗教行事の理解と実践

(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標

ICTを活用した授業の実践、自ら考えを表現できる力の育成

2. 令和2年度の取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
① 校訓、学順の理解 (1) 授業を通じて「挨拶」の実践を徹底する。 (2) 礼儀作法について学習、実践をする。	B	B	生活の基本である挨拶をする、法然上人像への一礼など、生徒は恥ずかしながらも実践していると思います。
② 授業内容のさらなる充実 (1) 授業開始時の一枚起請文奉読を徹底する。 (2) 生徒の理解に適した授業を展開する。	B	C	新型コロナウイルスによる影響、感染防止の観点から、一枚起請文奉読は声を出さずに心で称える事を基本としました。以前のように、「声に出して」を積極的に指導できない現実に対応するか？検討していきたいです。
③ 宗教行事の理解と実践 (1) 授業において宗教行事の由来、意義を学習する。 (2) 生徒参加による宗教行事の実践をする。	C	C	体育館での宗教行事そのものがZOOMによる式典に変更となり、生徒に宗教的作法の実践を指導する、検討することができませんでした。

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準：

A 予定通り進んだ	/	顕著に成果があった	B ほぼ予定通り進んだ	/	成果があった
C あまり進んでいない	/	あまり成果がでていない	D 進んでいない	/	できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

iPadの購入、ICT教育による授業展開を検討していきたいです。「宗教」として何ができるのか？時代のニーズに対応する、進化するツールをいかに利用していくかを考えていきたいです。

部署名	第 1 学年	担当者	
-----	--------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和2年度の重点目標 ※4月末までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 (1) 校訓「正思明行」・学順の実践 (2) 生徒・保護者・教員の意味疎通 (3) 特に英語・国語・数学を中心とした学力向上のための方策と学習習慣の確立 (4) 担任団・学年担当者・各分掌との連携・意味疎通
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 (1) 個々の将来の目標設定・目標を意味した進路指導の実践 (2) 社会の一員であることの意識の定着

2. 令和2年度の取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
(1) 法然上人の教え・校訓「正思明行」・学順を意味した生徒指導	B	B	(1) オリエンテーション合宿で本校のルールを教えることの大切さがわかった。
(2) 家庭と学校との綿密な連携	A	A	(2) 概ね達成できていた。
(3) 落ち着いた環境づくり			(3)
①「立腰」による落ち着いた授業環境をつくる	C	B	①概ね達成できていた。
②早朝テストの実施による、家庭や通学時間を利用した学習の習慣の確立	B	B	②早朝テスト合格のために地道な努力を続けることができた。
③定期考査前の補習の実施	A	A	③学期ごとに補習を行い、定期考査に意識を向けることができた。
※総合進学コースの目標			
①模擬試験で、英語・数学・国語の全国偏差値50を目指す	B	B	①毎日の勉強の成果もあり、生徒の成長を感じられた。
※特進Ⅱ類コースの目標			
①模擬試験で、英語・数学・国語の全国偏差値55を目指す	B	B	①毎日の勉強の成果もあり、生徒の成長を感じられた。
※特進Ⅰ類コースの目標			
①模擬試験で、英語・数学・国語の全国偏差値60を目指す	B	B	①毎日の勉強の成果もあり、生徒の成長を感じられた。
(4) 教員間の意味疎通			(4)
①学年担当者会議の可能な限りの実施	B	B	①概ね達成できていた。
②日常の会話による生徒の情報交換	B	B	②概ね達成できていた。

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準：

A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった	B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでない	D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

①本校のルールを徹底して守り、今後も落ち着いた授業環境をつくること。 ②全コースで成績の向上を図るために、授業内テストなどの継続的な実施。
--

部署名	第2学年	担当者	
-----	------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和2年度の重点目標 ※4月末までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ①校訓「正思明行」・学順の実践に基づいた人間力の向上 ②生徒・保護者・教員の意思疎通 ③基本的な生活習慣、学習習慣の確立 ④担任団・学年担当者・各分掌との連携・意思疎通
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 ① 大学進学実績の向上

2. 令和2年度の取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①・校則遵守の徹底 (立腰、挨拶、服装、頭髮、言葉遣いなど) ・行事等では積極的に参加するよう促し、生徒一人ひとりに責任を持たせる。 ・探究学習を利用して、プレゼンテーション能力を身につけさせる。	B B B	B B A	校則遵守に関しては、担任団を中心に積極的に指導し、概ね生徒たちも守れるようになっている。探究学習に関しては、より深く学び、こちら側が想定している以上のものを生徒たちが作り出していた。
② 学期に1回は必ず生徒との二者面談を実施し、日々生徒の様子を把握して、保護者と常に連絡を密にする	B	A	コロナウイルスの影響もあったが概ね二者懇談もできていた。
③・授業に対して真剣に取り組む姿勢を作るため、授業開始に立腰を行うことで心を落ち着かせる。 ・目標大学を明確にして、自学習の習慣を身につけさせ、家庭でも毎日机に向かって、復習・予習を自分でできるようにする。 ・授業と補講習を充実させ、特進コースは国公立大学、総合進学コースは関関同立を一般入試で合格するだけの実力をつけさせる。	B B B	B C C	授業態度はおおむね良好で、まじめに取り組んではいるが、コロナウイルスの影響もあり、手厚い指導を行うことはできていなかったのが反省点である。
④・担任団のみならず、学年担当者、教科担当者との連絡を密にして、情報を共有し、全職員が同じ方向性で指導にあたり、全員で生徒の夢・希望を応援する。	B	B	担任団、学年団とも意思疎通ができており、教員間での積極的な情報交換も多く、生徒の成長を全員でサポートしていた。

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準： A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

コロナウイルスによる緊急事態宣言の発出を受けて、高2学年の学校行事が激減した。その中でも担任団、学年団で生徒の心のケアも忘れず、生徒の側に立ってあげたサポートは出来ている。この状況下で出来なかった、学習面のサポートを手厚く高3学年で行うことを目標とする。
--

部署名	第3学年	担当者	
-----	------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和2年度の重点目標 ※4月末までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標	
① 生徒・保護者・教員的意思疎通	② 自立心を養う
③ 学力の向上	④ 希望進路実現に向けてのサポート
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標	
限られた時間を有効に使う、個々の進路目標達成のサポートをすること。	

2. 令和2年度の取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①・家庭との連絡を密にして、クラス担任が知り得た情報を、学年団教員全員が共有し同じ方向性を持って生徒の指導にあたる。	B	B	①：担任会を必ず週に一度おこない、生徒の状況を共有し、保護者とも連絡を密にしてきたが、1年間を通して学年会がなかなか開けなかった。
②・授業を真剣に受けたり、課題をきっちり提出するのは当たり前のことであって、家庭での自分のための受験勉強をいかに増やすかが大事である。一人ひとりに受験生であることを実感させ、個々の目標を明確にさせて、その実現に向けて行動させる。	A	A	②：3年生になってからは、受験を自分のことと捉え、自覚を持って自ら勉強に取り組んでいた。目標大学の入試科目や日程を自分で調べさせ常に自分のことであるということを自覚させた。
③・限られた時間の中での授業内容や提出課題、早朝や補講の効果的な実施方法を工夫する。 ・総合型選抜、学校推薦型選抜等で合格が内定した生徒に対するケアや、大学入学共通テストや一般選抜に向けて勉強する生徒に対する支援を両立させる。	A	A	③：補講習については、教科の特性もあるが、できるだけ一方通行の講義にならないように、個々の生徒に対応できるように実施した。指定校で内定した生徒に対しては、きっちりと課題に取り組ませ、全員に受験をチームとして捉えさせることで、授業中はクラス全員が協力して授業に集中していた。
④・個々に希望進路がそれぞれ違うので、その都度、二者面談をおこない、生徒の現状を的確に把握し、担任・学年団での情報の共有をしながら生徒を的確な進路に導いていく。 ・模試を有効的に活用し、的確な進路指導を行う。 ・総合進学コースの生徒についても、最後まで諦めない強い気持ちを持たせて受験に望ませる。 ・特進コースは国公立大学に目標を定め、大学入学共通テストで高得点につながるように指導をする。 ・進路指導部と連携をとり、個々の生徒の対応に当たる。	B	B	④：二者面談を各学期に最低1回実施することで、常に生徒の状況把握に努めることができた。 コロナ禍の中、限られた回数の模試や英検に対して、一回いっかいを大切に受けさせた。

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準：
 A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった
 B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
 C あまり進んでいない / あまり成果がでない
 D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

総合コース
将来像をしっかりと考えた上で、本当にその大学等に行きたい生徒のみ指定校推薦入試を利用するように指導した。コロナ禍で早く大学を確保したい生徒もいたが、推薦入試に頼らず最後まで諦めずに一般入試で自分の志望校に挑戦してくれた生徒が多くみられた。産近甲龍の層は結構いたが、関関同立の層の生徒が少なく、いかにその層を増やすかが問題である。
特進コース
国公立のチャレンジ校を大学入学共通テストを課す学校推薦型選抜に積極的に利用させたことで、私立大学受験で終わらず、国公立受験まで繋げていくことができた。コロナ禍の影響もあり、国公立大を合格しても進学まで至らなかった点が課題である。また、コロナによる休校期間や大学入学共通テストへの新傾向対策もあり、関関同立を合格するまでの対策が取れなかったことが今後の課題である。

部署名	人 権 教 育	担当者	
-----	---------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和2年度の重点目標 ※4月末までに記入

（短期目標）※本年度に取り組む目標

- ① 学年の現状に合わせた新しい教材を使った教案の作成
- ② 育てる人権教育の実践
- ③ いじめ防止対策委員会の年間計画に基づく人権教育の実践

（中・長期目標）※数年計画で達成したい目標

学校生活の中で人権問題（友達との関係、クラブ活動など）を認識する。

2. 令和2年度の取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①教材の開発 生徒の実態を考慮した教材の開発 SNS、インターネットと人権などに関する新しい教材を開発する	B	B	本年度は新型コロナウイルスによる影響により、休校期間は人権LHRを実施できませんでした。その中で、新型コロナウイルスによる人権問題を考える機会を設けることができました。
②育てる人権教育の実践 自他を理解した集団づくり(クラス、クラブ活動) 相手の立場、気持ちを理解する	B	C	新入生(1年生)は休校、ZOOMによる授業開始などで、人間関係を築くことに時間がかかり、不安な思いをする生徒もあったと思います。緊急時にも対応できる指導を検討していきたいです。
③生活アンケート 生活アンケートを各学期の最後に実施する、差別、偏見をテーマにした人権教育LHRの実践	B	B	生活アンケートから直接問題を提起することは難しいです。しかし、些細な事でも人権に関する情報が得られる重要な実践であると思います。

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準：

A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった	B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでない	D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

次年度も、新型コロナウイルスによる人権問題を考えていきたいです。
ICTなども利用して、分かりやすく関心を持って学習する指導を検討していきたいです。

部署名	保健管理	担当者	
-----	------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和2年度の重点目標 ※4月末までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標

1. 保健室の機能を充実し、保健管理の組織的推進を図る
2. 自立的な健康の保持・増進の確立をめざした保健教育の実践
3. 健康相談活動の充実と各分掌と連携、情報の共有化
4. 学校保健組織活動の円滑な推進

(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標

学校医をはじめとする学校保健委員会の組織化、推進化を図る。
Health Care Room (保健室のHP) 等で情報発信に努め、生徒、保護者の学校評価のアンケート結果を高める。

2. 令和2年度の取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
1. 保健室の機能を充実し、保健管理の組織的推進を図る ① 学校感染症の予防と発生時の迅速な対応(新型コロナウイルス感染症予防対策) ② 学校保健情報の集約 ③ 救急処置の迅速な対応、けがの予防教育(数値化) ④ 配慮を必要とする生徒の支援について、個別のニーズに応じた支援のあり方を示し、共通理解を図る 2. 自立的な健康の保持・増進をめざした保健教育の実践 ① 感染症予防に関する保健指導の充実 ② 本校が抱える心身の健康課題を見出し、個別・集団の保健指導の実践、将来に影響を及ぼす健康問題を研究 ③ 保健室ホームページの充実と関係医療機関との連携 3. 健康相談活動の充実と各分掌と連携、情報の共有化 ① 相談しやすい環境づくりとその問題を的確に把握し、全教職員と情報交換を密に図る ② SCと生徒相談、関係職員との連携、共通理解を図る ③ 不登校、いじめ事象等の迅速な把握と減少をめざす。 4. 学校保健組織活動の円滑な推進 ① 学校保健委員会、労働安全衛生委員会の組織的運営の確立、臨時委員会の適宜開催 ② 生徒保健委員会の主体的な活動のサポート(学級の健康管理や啓発活動、心身の健康に関する情報発信)更にその活動を担任等に評価、報告する	A A A A A B B A A A A A A	A B B A A B B A A B A B	・健康観察・除菌清掃活動の取り組みを学校全体で取り組み、欠席状況や体調不良者の状況をいち早く収集し感染予防対策を徹底した事は、感染の発生に至らなかった一因とも考えられる。 ・学校医と連携して地域の総合病院へ救急対応を整えたことは安心できる成果であった。 ・合理的配慮として個別のニーズに応じて支援を実践したが、保健室が抱え込む状況であった。 ・HPのHealth Care Newsや掲示物等であらゆる場面で健康教育を実践できたが、関係機関との連携はできなかった。新型コロナウイルス感染症以外の健康教育は不十分であった。 ・相談しやすい環境に努め、コロナ休校明けの心身のケアとしてSCと連携してアンケート調査等、いじめや不登校支援に個別に支援を行ったことは成果があった。担任や学年団とチームとしての連携が急務と考え、教育相談や保健室のあり方を検討、協議を行った。 ・産業医と連携し新型コロナウイルス感染症の講演会や修学旅行引率者検診の新たな取り組みを行った。 ・主体的な教育活動としての除菌清掃活動やカラオケや川柳募集等、興味・関心が湧く本校独自性に重点をおいた予防啓発活動の企画であった。

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準：
 A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
 C あまり進んでいない / あまり成果がでない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

- ・感染症の予防教育や感染症発生時の迅速な対応ができるようにシミュレーションとマニュアル化を行う。
- ・健康相談活動は、各分掌、担任・学年団、部活動顧問等チームとして連携・コーディネートを行い情報の共有化を図る。また、プライバシーに配慮して、教育相談室を活用して保健室業務の推進を図る。
- ・将来の健康・保持増進のための健康教育活動となり得る「がん教育」等についても、学校医等の専門的機関への助言を仰ぎ、保健体育科と連携し、生徒保健委員会活動の一環としても取り組みを検討していきたい。
- ・ICTの活用を見出し、保健室業務の効率化ならびに生徒保健委員会活動や心身の健康に関する情報発信においても重点的に推進していきたい。

部署名	図書教育	担当者	
-----	------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和2年度の重点目標 ※4月末までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ①図書室の運営管理の充実 ②図書の充実 ③読書活動の推進 ④利用生徒数の向上
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 ・蔵書管理システムの有効活用と蔵書登録・管理の徹底

2. 令和2年度の取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①図書室の運営管理の充実 (1)開館時間の安定 (2)館内の整備	B	A	昼休みや放課後の開館時間を定着させることができた。本の位置を常に一定にし、位置が変わった本も元に戻すことができた。
②図書の充実 (1)購入図書の選定および購入 (2)希望図書への配慮 (3)蔵書の整理	C	B	学期ごとに選定するジャンルを決め、選定も時間をかけてリスト化を図った。今年度は合計 135 冊の本を購入した。入れ替えの本や進路指導を意識した本を重点的に置くようにしている。また、話題の本(直木賞・芥川賞・本屋大賞)の本も購入している。
③読書活動の推進 (1)読書の啓発 (2)図書館だよりの定期的な発行	C	C	図書館だよりは毎月発行できたが、啓発まではできていない。来年度は興味関心を引くように館内のレイアウトや、図書館だよりの内容に工夫をしていきたい。
④利用生徒数の向上 (1)図書室利用の推進 (2)委員会の活動の推進	C	C	積極的な活動とはいえない。まだまだ整備すべきことが多く、生徒の自主性を促すところまでたどり着いていない。

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

・引き続き、図書館内の整備や登録作業をすすめ、来年度中には蔵書すべての登録を完了させたい。 ・今年度できなかった啓発活動を進める必要があるので、準備をしていく。 ・生徒が手に取りやすい・興味を持ちやすい・調べやすい・わかりやすいものを提供できるよう選定を行っていききたい。 ・生徒、教職員の図書室利用を促し、生徒にとっても教職員にとっても本が壁ではなく、扉になるように意識していきたい。
--

部署名	広 報	担当者	
-----	-----	-----	--

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和2年度の重点目標 ※4月末までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ・本校ホームページの更なる改良。 ・ブログの更新回数増加とアップ内容の精査。 ・近隣地域に向けた広報活動の充実。(道路沿いの横断幕、バス側面の広告等) ・SNS活用の検討。 ・広報委託業者の見直し。
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 ・学園財政を鑑み、広報効果が低い紙媒体を削減し、広報物の精査を図る。

2. 令和2年度の取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
(1) 本校ホームページの更なる改良。 ・ホームページ管理業者と連携を図り、バナー等利便性の高い状態を維持する。	B	C	現管理業者との連携が上手くいかないこともあり、利便性の高い状態を維持することが出来なかった。
(2) ブログの更新回数増加とアップ内容の精査。 ・広報担当で担当曜日を決め、日常的に学校の情報を発信することを目指す。	B	B	行事に関しては、内容の詳細が分かる文章と写真をアップし、内容の充実を図っている。ただ行事がないと更新回数が減少してしまい、目標回数には至らなかった。
(3) 近隣地域に向けた広報活動の充実。 ・見やすく、インパクトのあるものを作成する。	B	B	新規のものとして、スクールバス側面に広告を掲載した。またリニューアルした懸垂幕を掲示して工夫を加えてみたが、まだまだ改良の余地がある。
(4) SNS活用の検討。 ・時代に合わせた広報活動を研究する。	B	B	さまざまな情報を集めながら研究をし、積極的に検討を進めた。
(5) 広報委託業者の見直し。 ・本校の現状を理解し、広報物作成を依頼できる業者を選定する。	B	A	コンペティションにより次年度委託する業者を選定し、契約をすることが出来た。

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準：

A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった	B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない	D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

・次年度から新規委託をする業者との間において、上宮太子が目指す広報物のあり方をしっかりと伝え、共に完成度の高い仕事をしていきたい。 ・生徒アンケートの集計により、上宮太子のアピールポイントを明確化することが出来た。学校としてのアピールポイントを入試対策部学校案内・動画等の広報物に活かしていきたい。
--

部署名	業務推進室	担当者	
-----	-------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和2年度の重点目標 ※4月末までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ① 共有文書等のデータによる活用 ② 個人情報の管理の徹底 ③ 環境の充実 ④ 業務軽減への方策
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 ⑤ クラウドサービスの活用

2. 令和2年度の取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
① 共有文書等のデータによる活用 ・ 各種書類の印刷量の削減およびデータの活用	B	C	・ 十分とは言えなかった。次年度は積極的に進めたい。
② 個人情報の管理の徹底 ・ 定期的な個人情報の安全管理に対する教員への注意喚起 ・ 個人データの管理の徹底	C	C	・ 個別対応にとどまった。
	B	B	・ 一定の成果はあった。
③ 環境の充実 ・ ファイルサーバ内のフォルダの整理 ・ 個人PCへのセキュリティソフトの導入の徹底	C	C	・ 思うように進まなかった。
	C	C	・ 十分とは言えなかった。
④ 業務軽減への方策 ・ 分掌内での情報の共有化の徹底 ・ 効率的な業務の分担の実現 ・ 作業マニュアルの改訂	B	B	・ 一定の成果はあった。
	A	A	・ 実現できた。
	D	D	・ ほとんどできなかった。
⑤ クラウドサービスの活用 ・ クラウドサーバの利用	C	D	・ 検討はしたが、実現できなかった。

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

① 共有文書等のデータによる活用 ② 個人情報の管理の徹底 ③ 環境の充実 ④ 業務軽減への方策 ⑤ クラウドサービスの活用
--

部署名	学校評価	担当者	
-----	------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和2年度の重点目標 ※4月末までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ①学校評価に関する企画・立案・実施 ②学校評価の報告書の作成・提出 ③授業アンケートに関する企画・立案・実施 ④学校関係者評価委員会の企画・立案・実施
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 各アンケートの活用方法についての検討

2. 令和2年度の取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①令和2年度各部署からの報告書の資料作成 ・各部署からの重点目標の確認 ・各部署からの中間評価の確認と点検 ・各部署からの年度末評価の点検と資料作成	A	A	資料作成は予定通りに作成できた。
②令和元年度の学校評価の報告書のホームページ用資料作成	A	A	報告書は予定通りに作成することができ、ホームページに掲載できた。
③授業アンケートの実施とその結果の有効活用の検討	B	B	アンケート結果の活用方法については現行のままだけではなく、まだまだ検討する余地があると思われる。
④学校関係者評価に対する資料作成	A	B	コロナ禍の影響により、学校関係者評価は対面での委員会の形態は取れず、書類回覧及び意見の回収という形で実施した。よって闊達な話し合いの場は持てなかった。

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準：

A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった	B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない	D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

次のことを今後考えていきたい。 ①授業アンケートの内容及び活用方法の検討 ②授業アンケートのオンライン実施の可能性

部署名	事務室	担当者	
-----	-----	-----	--

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和2年度の重点目標 ※4月末までに記入

(短期目標) ※本年度に取り組む目標 ①適切かつ効率的な事務処理と質のさらなる向上 ②企画・運営に関する事務(特色のある学校づくり) (継続) ③校内・教育環境のさらなる整備 (継続)
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標 学校の課題を真摯に考え地域のニーズに応じた特色のある学校作りを生徒獲得に向けて教員とともに実現していく。

2. 令和2年度の取り組み内容 ※内容は4月末までに記入 / 年度末評価は3月末までに記入

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
① 適切かつ効率的な事務処理と質のさらなる向上			
・上宮本部からの移動職員、新任職員の配属によりコミュニケーションをとりながら確実に業務を進め、組織的な業務の質の向上を目指す。	B	B	・コミュニケーションと取りながら、効率よく確実に業務を進めることができた。また業務の配分の適材適所により効率化が進んだ。
・教職員とのコミュニケーションにより、子どもたちや保護者の意見を聞きながら、生徒・保護者への対応についても相手の立場に立ち、親切かつ丁寧さを心がけ、子どもたちや保護者が安心できるような事務室としての役割を果たす。	B	A	・授業料・就学支援金・奨学金等の対応等、相手の立場に立ち、安心できるようなきめ細かい対応ができた。
・天王寺事務所との連絡を密にとり相互の連絡ミスを防ぎ、また業務の効率化を図る。	B	B	・天王寺事務所との書類の受け渡し方法に関してミスを最小限に抑えるように改善した。
・今まで慣例的に行っていた業務・作業の内容と工程を適正であるか見直し、向上を図る。不必要であれば廃止も検討する。	C	C	・コロナ過により、業務・作業の内容と工程に変化があった。これを今回だけの一過性のものとして扱って後退せず、今後も進んでいく必要がある。
② 企画・運営に関する事務(特色のある学校づくり)			
・創意工夫を生かした特色ある学校づくりを、進めていき、HP・学校案内・説明会をうまく活用しながら情報発信をする。	C	C	・WEB説明会等を活用しながら情報発信をしたが、満足いくような発信は出ていない。次年度より、学校HPの業者の変更も行っており、新たな視点・観点から情報発信していきたい。
・教員と同じ方向を見据え、同じ目標を共有し、積極的に学校の課題を把握し、その課題に対する改善策の提案・実現を考えていく。	C	C	・生徒募集に関して、専願者が減っている。そのために教職員それぞれが真摯に課題を考え、一つの目標を立て一丸となって実現していく必要がある。
③ 校内・教育環境のさらなる整備 (継続)			
・新型コロナウイルスの感染拡大を受け臨時休校が広がり、学校に通えず外出の機会も減る中で、子どもも親も不安を抱えている。今回のコロナの事象に関わらず将来を見据え、家にいながら学べるオンライン教育(遠隔教育)等を考えていく必要があり、これに必要な環境を整備し子どもたちが新たな学びに触れることができるよう検討していく。	B	B	・素早い設備の整備により、ほぼ問題なくオンライン教育を進め実行していくことができた。今後も、今回だけの臨時的なものにならないよう、より効率的な運用ルールを考え後退していくような事態にならないように進めていく必要がある。

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準： A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容 ※3月末までに記入

生徒が安心・安全に学校生活を送ることができるよう ICT 以外の学校設備・環境等の改善等も行っていく。 また、今年度はコロナ過の影響により良い意味でも仕事の環境への変化に大きく影響を与えた。これを機に、環境が後退することがないように根本的な意識も含め常に改善し進んでいく。 今後も事務室としての本質的な役割は変えずに、新しい学校教育を見据えながら現場のサポートを続けていきたい。
--

令和2年度 授業アンケート 分析

1. 実施時期

令和2年11月13日（金）

2. 対象学年

全学年

3. グラフについて

各項目に対して、「高い評価」・「やや高い評価」・「やや低い評価」・「低い評価」の4段階で評価をし、「高い評価」と「やや高い評価」を合わせた評価を肯定的評価と呼んでいます。

教科別肯定的評価グラフ

各教科に所属している教員の肯定的評価の割合を示しています。

質問別肯定的評価グラフ

「授業マナー」…あなたは、この授業でマナー（私語・いねむり等をしない）を守っていますか？

「授業参加」……あなたは、自分なりの目標を持って、この授業に積極的に参加していますか？

「家庭学習」……あなたは、この授業に必要な家庭学習（予習・復習等）をしていますか？

「話し方」……先生の話し方や説明の仕方はわかりやすいですか？

「板書等」……先生の黒板・プリント等の使い方（体育・芸術等は実技指導）は良いと思いますか？

「要点強調」……先生の授業は、重要なところが強調されていますか？

「授業難度」……授業の学習内容のレベルは、ちょうど良いと思いますか？

「授業速度」……授業を進めるスピードは、ちょうど良いと思いますか？

「理解確認」……先生の授業は、生徒の理解を確かめながら進められていますか？

「質問発言」……先生は、生徒の質問や発言を促し、ていねいに対応していますか？

「授業展開」……授業の進め方（組み立て）は、興味関心を引き、学習意欲をわかせると思いますか？

「教員熱意」……先生の授業に熱意を感じますか？

「公平対応」……私語などに対して適切な対応が取られ、公平で思いやりのある授業ですか？

「満足度」……この授業は、あなたにとって良い授業だと思いますか？

この内、「授業マナー」・「授業参加」・「家庭学習」は生徒の自己評価になります。

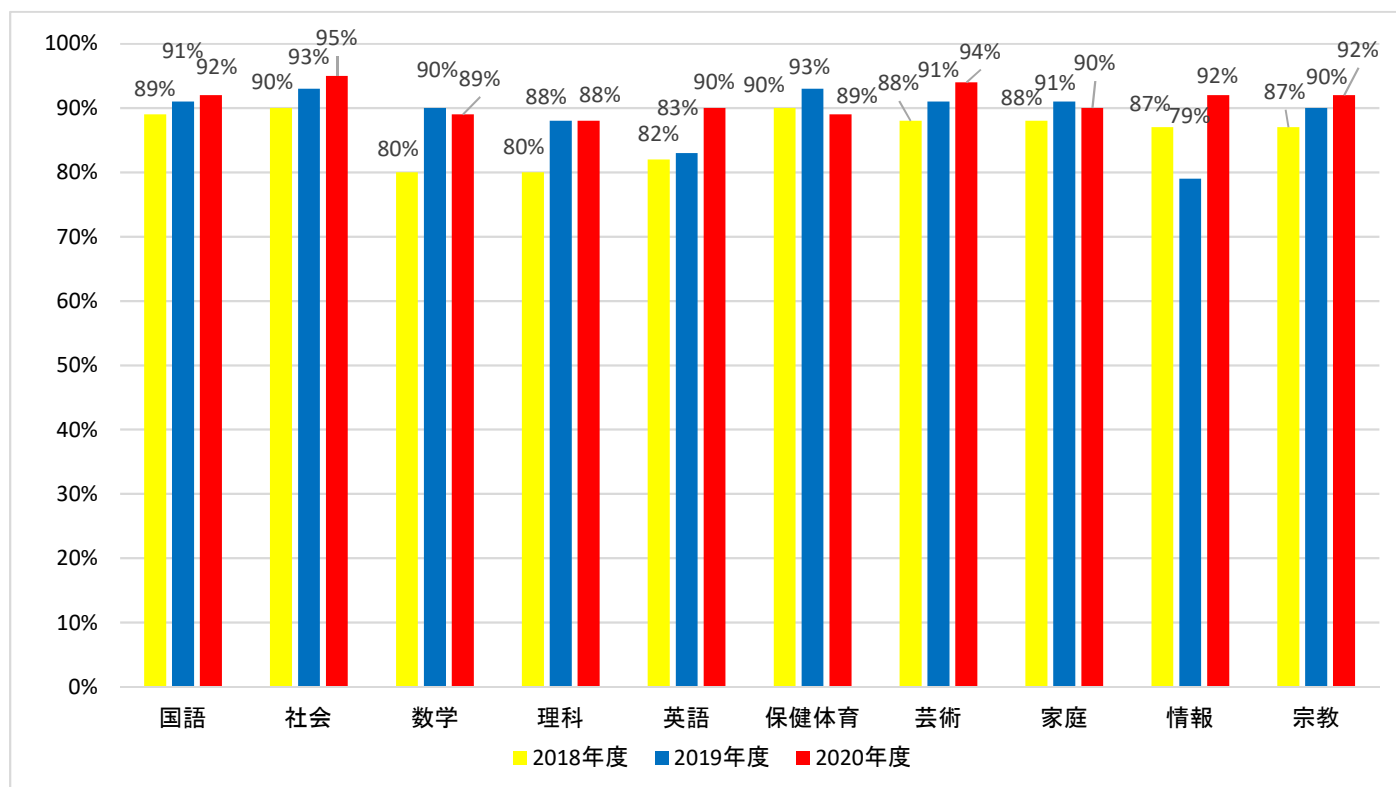
4. 分析

令和2年度は11月に実施した。約6ヶ月間授業を実施して、生徒がどのような受け取り方をしているか、また、どこに問題点があるかを確認し、その後の授業に反映できるように行った。

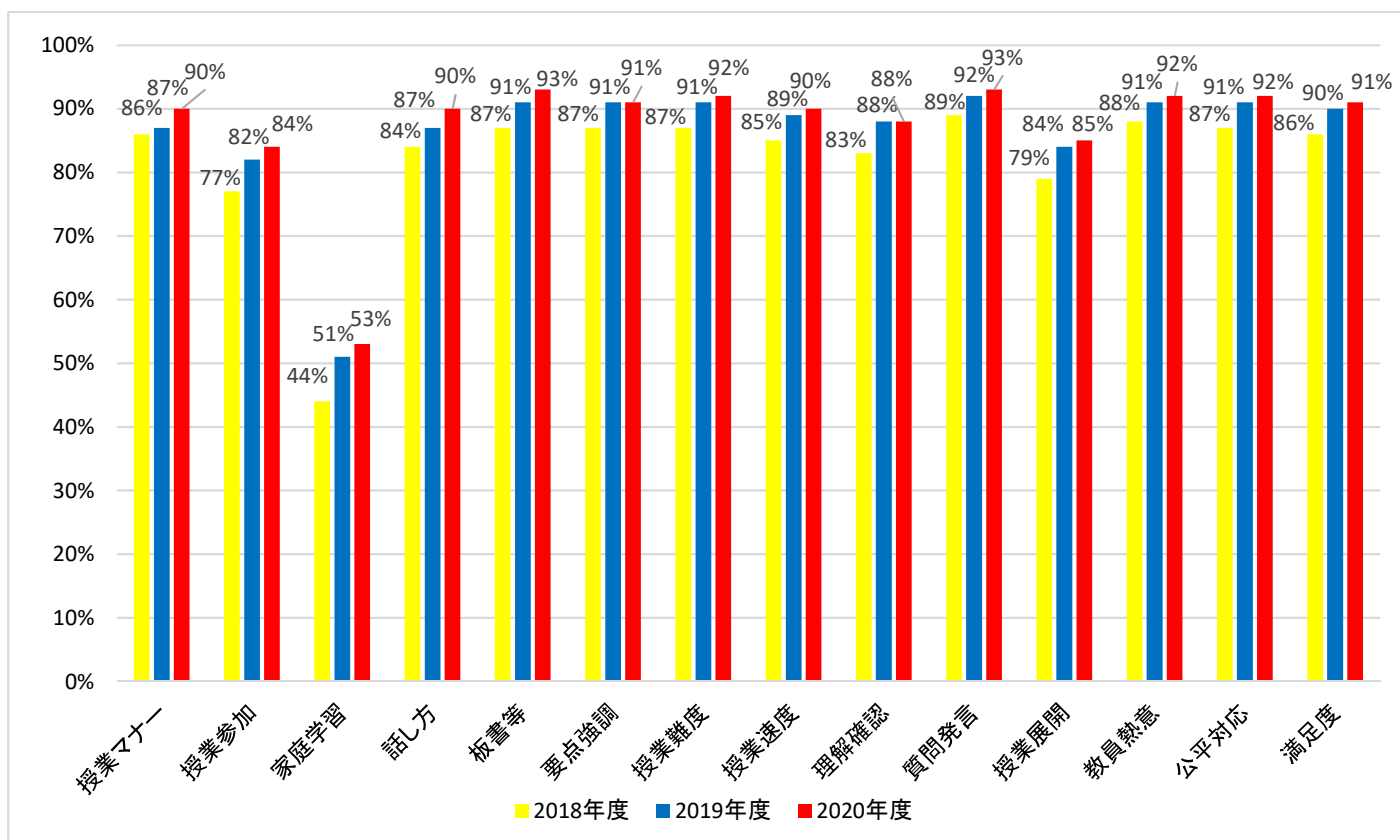
ここに載せたグラフは、全教員の平均であり、かなり経験豊富な教員から経験がまだ少ない教員まで含まれている。各教科でお互いに情報交換をしながら、全体的にレベルアップをしていけるように活用したい。

教科別肯定的評価グラフにおいて、各教科とも80%以上になることを目標としている。今年度は全教科で目標の80%以上をクリアできた。過去3年間のグラフを比較すると、今年度は全体としてもかなり高い評価を受けている。特に英語、情報の評価は前年度と比べると7ポイント以上の高い評価になった。今後とも、より高い評価になるように教科で検討を重ねていきたい。特に情報科においては10ポイント以上上昇しており、昨年度の結果を踏まえて、かなりの改善がなされたようだ。

令和2年度 授業アンケート（教科別評価）



令和 2 年度 授業アンケート（質問別肯定的評価）



質問別肯定的評価グラフにおいては、昨年度と同様に今年度の重点目標として家庭学習の習慣を掲げた。数値的には高い結果とはいえないが、昨年度よりも更に上昇し、3年連続で前年を超えることができた。このことから毎年目標としている家庭学習の習慣の向上は、その取り組みが功を奏してきていると考えられる。（自己評価の「家庭学習」は実技教科を含んだ数値であるため40%以上が目安になる。本年は53%）

他に、「授業展開」の評価は他の項目に比べると、例年評価の数値が低い。しかし、この項目でも今年度は昨年度からの結果を維持し、若干ではあるが上昇させることができた。そして、全体として見れば、今年度は直近3年で最高の結果を出すことができたと言える。高い結果が出るといことは、今後は下降する可能性の方が高い傾向が出てくるため、各教科ともに、現状が維持できるようにするには、どうすればよいかを教科会等で話し合うことが大切である。

令和2年度 学校評価に関する報告書

上宮太子高等学校

1. 令和2年度年間目標

令和2年度の年間目標として、「浄土宗の教えを基盤としながら、卒業後の人生に役立つ人づくり、人間力の向上」という前提のもと、「礼節を重んじ、常識を身に着け、ルールを守ること。負荷をかけることで学力面を向上させること。各コースからの大学合格者数の数値目標や英検の取得目標を実現させること。各部署それぞれが連携して職務に取り組み、各教科が授業力の向上のために研究に取り組むこと。そして働き方改革を進めた上で目標を達成していくこと。」を掲げた。

2. 各部署の目標と評価

①教務関係

【重点目標】

1. 教務運営システムの整備・効率化
 - ・行事の着実な実施と改良
 - ・教務各係の業務内容と資料の点検整備
 - ・教務内規の精査、改定、整備
 - ・各部署との連携強化
2. 有効な指導体系の継続検討
 - ・カリキュラム改訂の検討
 - ・シラバス整備・公開の検討
3. 国際理解教育の推進
4. オンライン授業の導入

【評価】

- ・新型コロナウイルスの影響が続く環境下で、学校行事について、生徒の安全・健康を守るため辛抱を求める場面もあったが、各部署と連携を取り、感染防止に努めた上で、可能な限り行事を進めるように努めた。
- ・業務内容を明確化し、点検・整理を行った。また、上宮高校との内規比較から改善点の検証を図った。
- ・令和4年度の新教育課程用カリキュラムを検討できた。また、各教科・科目の年間指導計画は例年通り整備しつつも、シラバスへの改良や公開に関しては未だ検討中である。
- ・新型コロナウイルスの影響で、海外語学研修はすべて中止となったが、イングリッシュワークショップと海外語学研修に代わるイングリッシュキャンプを実施することができた。
- ・新型コロナウイルスによる臨時休校期間の対策として、保護者のご協力のもと、組織的なオンライン授業体制の整備ができた。

②生徒指導関係

【重点目標】

1. 悩みを持つ生徒が、楽しく学校生活を送れるようにする
2. 生徒会活動、委員会活動、広報活動、ボランティア活動の活性化と研究

3. 生徒指導の推進と問題行動の予防強化、生徒の道德意識、規範意識の向上
4. いじめ・不登校、配慮を要する生徒への取り組み
5. 生徒の愛校心の向上

【評価】

- ・ カウンセリングについてはスムーズに対応ができた。カウンセリングの部屋が同じ棟になったために、動きがよくなった。この形は今後共次年度にもつなげていきたい。
- ・ 新型コロナウイルスの影響で予定していた行事が変更されたり、できなかったりしたが、生徒会役員が中心となって、形を変えて実施することができた。(すぽかるふえす 2020 等)
- ・ インターアクトクラブの認証伝達式を規模が縮小はしたが実施でき、他校や外部機関と連携して、ボランティア活動の第一歩を踏み出すことができた。
- ・ 新入生には新型コロナウイルスの影響で、例年のように一斉に会しての生徒指導の話ができず、定着させることに時間を要した。

③進路指導関係

【重点目標】

1. 進学実績の目標達成（3年）
 - ・ 国公立大 目標 14 以上
 - ・ 関関同立 目標 20 以上
 - ・ 産近甲龍 目標 80 以上
2. 基礎学力の向上（1、2年）
 - ・ 進研模試偏差値 ss52 以上を学年の 2 割以上
ss46 以上を学年の 5 割以上
 - ・ 模試の事前・事後指導、結果分析の更なる取り組み
3. 主体性を育む教育
4. 戦略的改革
 - 生産性の高い進路指導体制の構築
 - ICT 教育の推進
 - アクティブラーニングの研究と啓蒙

【評価】

- ・ 国公立大 目標 14 以上 → 実績 16
- ・ 関関同立 目標 20 以上 → 実績 9
- ・ 産近甲龍 目標 80 以上 → 実績 94
- ・ 進研模試偏差値 ss52 以上を学年の 2 割以上 → 18%（1 年）、15%（2 年）
ss46 以上を学年の 5 割以上 → 41%（1 年）、27%（2 年）
- ・ 探究活動の推進を行った結果、発表会やその形ができつつある。
- ・ 進路指導体制に関する各部署との協力関係に対する構築が不十分であった。I C T 教育は教科により浸透しつつある。

④入試対策関係

【重点目標】

1. 受験者数の安定化・増加のための活動
2. ICT ツールを使った広報活動
3. 情報の収集・共有化
4. 今後に向けての対応策の検討

【評価】

- ・入試における受験生は昨年より増加したが、専願者数は減少した。地域での受験者人口が減った中での増加だったが、今後専願者を増加させることを考える必要がある。
- ・コロナ禍の状況で、説明会や校内イベントへの参加を控える受験生、保護者がいると予想されたため、オンラインによる個別相談会や説明会を企画した。本校 HP には学校紹介 VTR を制作し載せることができた。来校できない受験生、保護者のために学校をアピールするコンテンツが増えたことはよかったと思う。
- ・次年度の受験者人口はやや増加するが、併願者の戻りが多くはない現状を鑑み、如何に入学者を増やすのかを、入試対策部、広報係、教務部と共通認識のもとで、保護者・在校生・卒業生のご協力を得ながらで取り組んでいきたい。

⑤教科

【重点目標】

- ・学力、指導技術の向上
- ・教科会の活性化
- ・アクティブラーニングを導入した授業の研究
- ・新学習指導要領、大学入試問題等の研究推進及び対策

【評価】

- ・教科により、教科会で学力向上についての意見交換は行えた（Zoom 教科会等）が、例年ほど活発には実施はできない状況であった。これにはコロナ禍が影響を及ぼした。
- ・コロナ禍により、昨年度に比べ、研修会等に参加できる機会が減少した。
- ・各教科共、教授法の改善には関心が高い。今年度は特に ICT を用いての授業が大きく前進した（Zoom を使った授業が大きく影響）。
- ・大学の入試問題の分析を各教科で具体的に組織的に実施した。
- ・実技教科においては、その教科の特性を鑑み、体力の向上、技術の向上、協調性、素晴らしい感性の育成等の目標はほぼ達成できていると考えられる。また実技教科においても ICT の導入を実施した。

⑥学年

【重点目標】

1. 各学年に応じた基本的生活習慣及び学力定着、家庭学習の確立
2. 担任団・学年担当者間・各分掌・保護者との連携
3. 自立、責任感を持たせる取り組み

【評価】

- ・各学年とも年度当初の目的は概ね達成できた。基本的生活習慣の確立については、学年を通じて今後も取り組んでいきたい。
- ・学年内での情報共有については、昨年度よりは進展したと思われる。多忙な時間の中でも積極的に時間を作るようにした。
- ・将来を見据えた大学進学に関しては、各学年とも、二者懇を積極的に行うことで、昨年度以上に取り組んだ。
- ・今後とも各学年の達成目標を意識した指導の確立を目指していきたい。

⑦その他

【重点目標】

1. SNS、インターネット社会における人権教育の実践
2. 保健管理の組織的推進、自立的な健康の保持・増進、健康相談活動の充実
3. 読書活動の推進
4. ホームページ改良、SNS活用、近隣地域に向けた広報活動の充実
5. データ処理システムの効率化、個人情報管理の徹底、業務軽減への方策
6. 校内・教育環境の整備

【評価】

- ・SNS、インターネットと人権について考える教材を作成した。ただ内容的には、新型コロナ禍での人権問題を考えることとなった。
- ・保健室から新型コロナウイルス感染症の情報を積極発信し、健康観察、除菌清掃活動に取り組み、いち早く感染予防対策に取り組んだ。
- ・図書教育においては、安定した図書室運営は実施できた。しかしながら新型コロナ禍の影響から積極的な読書活動、委員会活動ができなかった。
- ・広報ではホームページの改良は実施できたが、管理業者との連携がうまくいったとは言えない。SNS活用では、様々な情報を集めながら研究し、積極的に検討した。また、近隣地域に向けた広報活動では、スクールバスの側面に広告を掲載し学校情報を発信した。
- ・データ処理システムの効率化は十分とは言えなかった。ただ個人情報の管理の徹底は実施でき一定の成果はあった。業務の軽減化は効率的な業務分担においては実現できた。
- ・コロナ禍の影響以前に、ICT教育の環境整備が終わっていたこともあり、年度当初からほぼタイムリーにオンライン授業が実施できた。今後共、この運用が一時的なものとならないよう、積極的にICT教育関係の環境を推進していく必要がある。

3. 授業アンケート

授業アンケートは2学期に1回実施し、各教員の授業力の向上を図った。資料については別紙に記載している。

令和2年度に関する学校関係者評価報告書

上 宮 太 子 高 等 学 校
学 校 関 係 者 評 価 委 員 会

1. 令和2年度自己評価結果について

令和2年度学校関係者評価は、新型コロナウイルス感染症防止への配慮から、学校評価関係者が一堂に会して評価を行う従来の方法を取らず、担当者がまとめた報告書を各委員に送付、そして意見を回収し取りまとめるという方法で実施した。

今回使用した資料は以下の通りである。

1. 令和2年度 学校評価に関する各部署の総括
2. 令和2年度 学校評価に関する報告書
3. 令和2年度 授業アンケート分析

まず、令和2年度の年間目標として「浄土宗の教えを基盤としながら、卒業後の人生に役立つ人づくり、人間力の向上」という前提のもと、「礼節を重んじ、常識を身に着け、ルールを守ること。生徒に負荷をかけることで学力面を向上させること。そして各コースからの大学合格者数の数値目標や英検の取得目標を実現させ、共学教育を更に安定させ、各部署それぞれが連携して職務に取り組み、各教科が授業力の向上のために研究に取り組むこと。そして働き方改革を進めた上で目標を達成していくこと。」を掲げ、そのもとで各部署が年間目標を作成し、それに向けて実施できた内容と課題の報告を上記2の報告書に掲載した。それから、その実施した内容に対しての“遂行度”/“達成度”の観点を踏まえた評価基準による分析をもとにした自己評価結果を、上記1の総括の中に詳しく掲載し、各部署からの報告を示した。ここでは、10月の中間評価を経て、年度末に最終的な評価がなされている。結果はあくまでも自己評価であるため、部署によっては若干の評価基準の差異が生じている面も存在する。

上記3の「授業アンケート分析」については、例年11月に全生徒を対象に実施している内容が報告され、その結果に基づいた資料の説明と分析結果が提示された。評価については、真摯に受け止めるなければならない結果も見受けられる。ここで出た結果は、今後、担当者個人や教科会等で検討、活用されるものである。

2. 令和2年度 自己評価結果についての評価

「各部署の目標と評価」に関しては、各部署ともに細かく適切な目標設定をし、各項目に対して適切に対処していると評価できる。また、各部署間の連携も前年度よりも更に改善できているようだ。ただ課題を進めていくうちに、継続的に改善すべき課題、時間不足が原因で達成できなかった課題、新たに考慮する課題も出てきているようなので、今後とも研鑽をして、より良い学校にしていきたい。シラバスについては生徒の学習計画に役立つものなので、できるだけ公開へと進めてもらいたい。ただ、コロナ禍の環境の中でオンライン授業に積極的に取り組まれたことはすばらしかったと言える。

「授業アンケート」に関しては、先生の熱意や生徒の満足度の項目が毎年向上していることは評価できる。生徒の家庭学習面が伸びており、それが全体を引き上げたと思われる。今後とも、もっと学びたいと思うような授業の評価を高めていってもらいたい。以前から、熱意のある先生が非常に多いので、授業アンケートの結果を参考にしながら、この取り組みが維持されることを期待している。

進路指導面では、主体性を育む教育を目標とし、その上で、具体的な数値目標を掲げて取り組まれていることは望ましいことと言える。また、探究活動や教材の活用法、模試の活用法、ICT 教育を積極的に取り入れた家庭学習の在り方を取りまとめていこうとされていることは評価に値する。ただ、今年度の評価については、十分に満足できる結果には到達していないということなので、今後も引き続きこの整備を進めていってもらいたい。教員間の大学入試制度改革研究や「主体的・対話的で深い学び」の実現への教員研修も推奨されておりながら、コロナ禍の影響で予定通りに進まなかったことは残念である。ぜひとも次年度に環境が戻れば、更なる教員間の研修に取り組んでいかれるように望むところである。進路情報に関しては生徒だけでなく、保護者にも新しい入試改革の情報等を積極的に伝達していってもらいたい。

生徒指導面では、全教員による一律指導を目指した情報共有の取り組みは評価できる。しかし、ここでもまたコロナ禍の影響により、生徒への一斉指導に影響が出ていたことは残念なことである。配慮を要する生徒への取り組みを強化し、スクールカウンセラーから各学年担当者に至るまでの連携強化が、スムーズにできたということは評価できるものである。そして、生徒会役員による生徒会活動を活発に利用され、生徒自らが主体的に行動する意識を学校全体で共有されていることは大変好ましい。コロナ禍の影響で行事が変更されたりして大変な面があった中、生徒会役員を中心にその代替案を考えられたことはすばらしい。この生徒中心の動きが、今後共広がっていくことを大いに期待している。他校でも生徒主導による活動がますます重要視されてきているので、さらに生徒を活用した学校生活となるよう取り組まれない。

各学年、各教科での指導面でも、前回同様に授業アンケートの結果を考慮され、コロナ禍ではあったが、教科内での情報共有に Zoom 会議等を用いて意思疎通を図られたことは、教員間の意識の統一を大切にしているということで評価に値する。こうしたあり方は、各分野それぞれでのレベルの底上げにつながり、今後に期待できるものとなろう。そして、ベテラン教員と新任教員との情報共有が、安定した一律授業へと繋がるので、ぜひとも継続していただきたい。

以上の他に、生徒の愛校心の向上や、入試対策面で同窓会がもっと関わっていく必要性や、クラブ活動にも目標や評価をしてはどうであろうか、また成人年齢の低下に伴うこれからの高校生の在り方や、ネット社会におけるメディアリテラシー教育の必要性にもさらに配慮することが必要とのご意見もいただいた。